日本再生プログラム推進フォーラム 時局講演会

ふるさと原理主義
～浪漫主義的歴史観・幕末の水戸編～

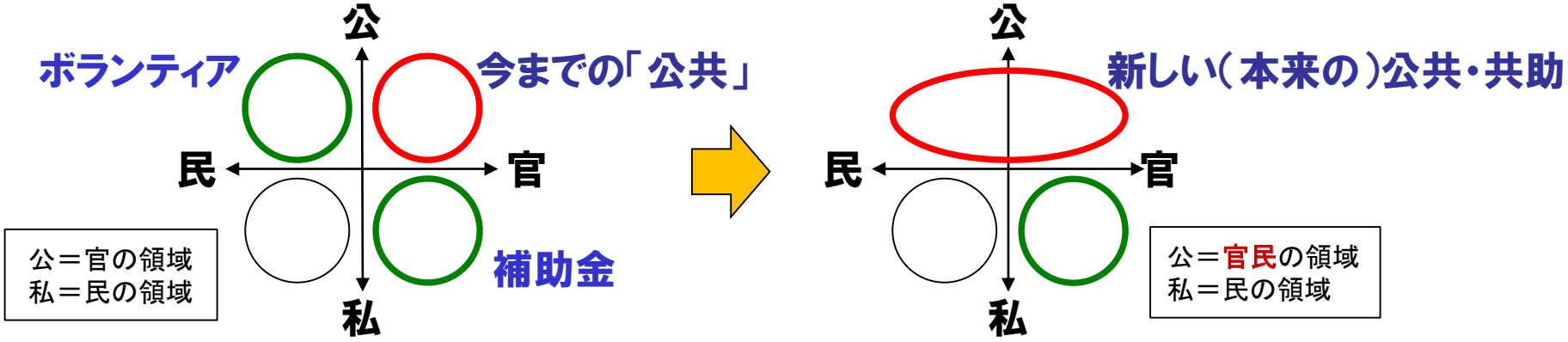
平成29年3月4日

NPO茨城の暮らしと景観を考える会
株式会社　ミ　カ　ミ
三　　上　　靖　　彦

新しい公共(共助)によるまちづくりの時代

新しい公共:自助・共助・公助の中の「共助」

- 自助を支える共助
- 「小さな官」のもとでの「豊かな公」を提供する「民」の力
- 草の根の力、民間資金の活用
- 官民協働:その基本は民主導。まずは民が動くこと。
- 後ろから官(資金や制度)がついてくるもの(支援する立場)。
- 「公」は、昔からそれぞれの立場で、主体性をもってやるべきこと。



新しい公共の領域

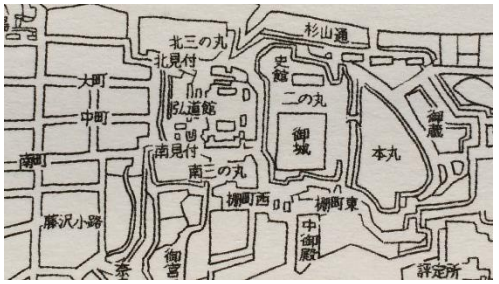
- 既存の公共事業から始まり、ボランティア的な事業、ビジネスまで。
- 「儲かるか儲からないか」は別問題。

三上靖彦　58歳

【略　歴】

・昭和34年1月　水戸市南町に生まれる
・昭和40年3月　水戸市立三の丸幼稚園 卒園
・昭和46年3月　水戸市立三の丸小学校 卒業
・昭和49年3月　水戸市立第二中学校 卒業
・昭和52年3月　茨城県立水戸第一高等学校 卒業
・昭和56年3月　筑波大学第一学群自然学類 卒業（地球科学）
・昭和58年3月　筑波大学大学院修士課程環境科学研究科 修了（学術修士）
・昭和58年4月　株式会社 地域計画連合（東京）入社
・平成　2年4月　株式会社 ミカミ（水戸）入社
・平成　4年2月　技術士（建設部門・都市及び地方計画）
・平成10年6月　株式会社 ミカミ 代表取締役　現在に至る
・平成12年1月　ワシントン大学経営大学院リーダーシップベーシックコース修了
・平成13年9月　ワシントン大学経営大学院リーダーシップアドバンスコース修了
・平成26年7月　建設事業関係功労者として国土交通大臣より大臣表彰を受賞
・平成27年5月　全国測量設計業協会連合会会長表彰を受賞
・平成28年4月　認定都市プランナー（都市・地域経営）
・平成28年7月　リノベーションスクールプロフェッショナルコース全課程修了

水戸で生まれ育つ。幼稚園から高校卒業まで13年間、水戸城の中で学ぶ。



【専門分野】

・自然地理：理学（なぜそうなのか、を問う基礎科学）
　地形学（河川地形、海岸地形、平野の地形、台地の地形、丘陵地の地形、など）、土地条件
・まちづくり：工学（だからどうする、を問う応用科学）
　都市・地域経営、プロジェクトマネジメント、エリアマネジメント、市街地整備計画、中心市街地活性化計画、観光振興計画、拠点地区開発計画、NPOや市民主体によるまちづくり

【著　書】

・技術士活躍情報　（平成　6年・経営情報出版社／共著）
・夢を追う技術者・技術士　（平成10年・コロナ社／共著）
・中心街元気マニュアル　（平成12年・商店建築社／共著）
・技術士第二次試験合格完全対策　（平成14年・経林書房／共著）
・水戸空間診断 dead or alive　（平成16年・筑波大学貝島研究室／共著）
・朝日新聞茨城版「暮らし経済あれこれ」　（平成16年11月から平成20年3月まで連載）
・インフラ・まちづくりとシビルNPO　（平成26年・土木学会／共著）

【社会的活動】

- 平成15年　5月　NPO法人 茨城の暮らしと景観を考える会　理事・事務局長
- 平成17年　4月　水戸コミュニティ放送（FMぱるるん）番組審議委員会　委員
- 平成17年　8月　県営公園指定管理者選定委員会　委員長（茨城県公園街路課）
- 平成17年　9月　水戸オセロプロジェクトいばらき推進委員会　事務局長
- 平成18年　2月　道路空間検討委員会 委員（国土交通省常陸河川国道事務所）
- 平成18年　2月　水戸市景観審議会 委員（水戸市都市計画課）
- 平成18年　9月　茨城県出資団体経営改善委員会 委員（茨城県出資団体指導監室）
- 平成19年　3月　NPO法人 茨城の暮らしと景観を考える会　代表理事
- 平成20年　8月　茨城県快適な社会づくり推進会議 委員（茨城県政策審議室）
- 平成20年　8月　水戸藩開藩四百年記念『桜田門外ノ変』映画化支援の会 事務局長
- 平成20年10月　水戸市中心市街地活性化協議会 副会長
- 平成21年　2月　コミケでまちおこし・みと実行委員会 副会長
- 平成21年　8月　いばらきデザインセレクション審査委員（茨城県デザインセンター）
- 平成22年　2月　茨城県総合計画審議会 活力あるいばらきづくり部会 委員（茨城県企画部）
- 平成22年　7月　茨城県民文化センター指定管理者選定委員会 委員（茨城県生活文化課）
- 平成23年　4月　偕楽園・弘道館復興支援の会 副会長
- 平成23年10月　NPO法人 日本再生プログラム推進フォーラム 理事（地域のひな型研究会担当）
- 平成25年　5月　関東ICT推進NPO連絡協議会 幹事（総務省）
- 平成25年11月　水戸商工会議所 常議員 観光振興委員会 委員長
- 平成26年　3月　水戸市観光審議会 副会長（水戸市観光課）
- 平成26年　4月　NPO法人 シビルNPO連携プラットフォーム（CNCP）理事
- 平成26年11月　水戸市都市交通戦略会議利用促進部会 副部会長（水戸市地域振興課）
- 平成27年　2月　CNCPソーシャル・ビジネス提案コンテスト実行委員会 委員長
- 平成27年　3月　旧水戸城大手門等復元整備促進実行委員会 委員（水戸市文化課）
- 平成27年　4月　水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員（水戸市政策企画課）
- 平成27年12月　リノベーションまちづくり@水戸　実行委員会 アドバイザー
- 平成28年　2月　水戸どまんなか再生プロジェクト会議　副座長（商業空間のマネジメント担当）
- 平成28年11月　水戸商工会議所 常議員 コンパクトシティ・まちかな居住推進委員会 委員長
- 平成28年11月　株式会社まちみとラボ 代表

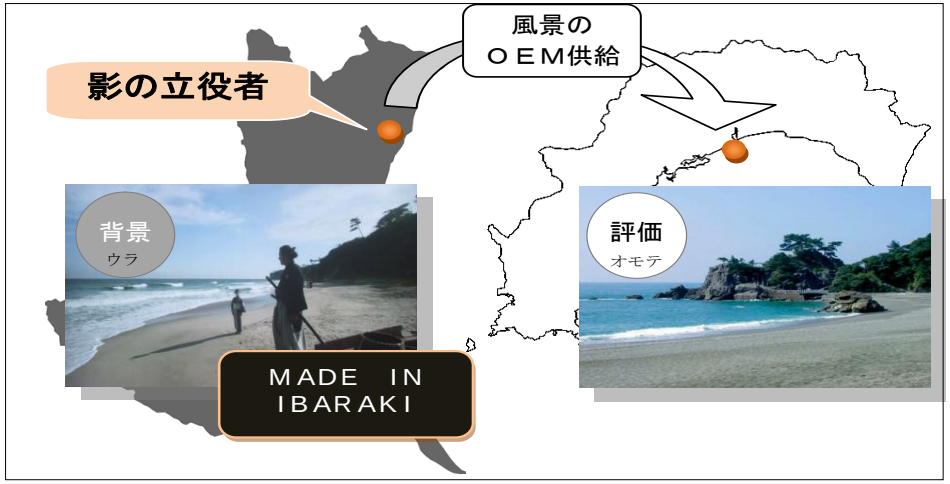
海あり山あり　資源豊かな茨城県

でも、農産物や風景をOEM（相手先ブランド）供給

茨城が大切に育ててきた農産物や風景が他の地域の名前で?!

茨城産の農産物のOEM供給

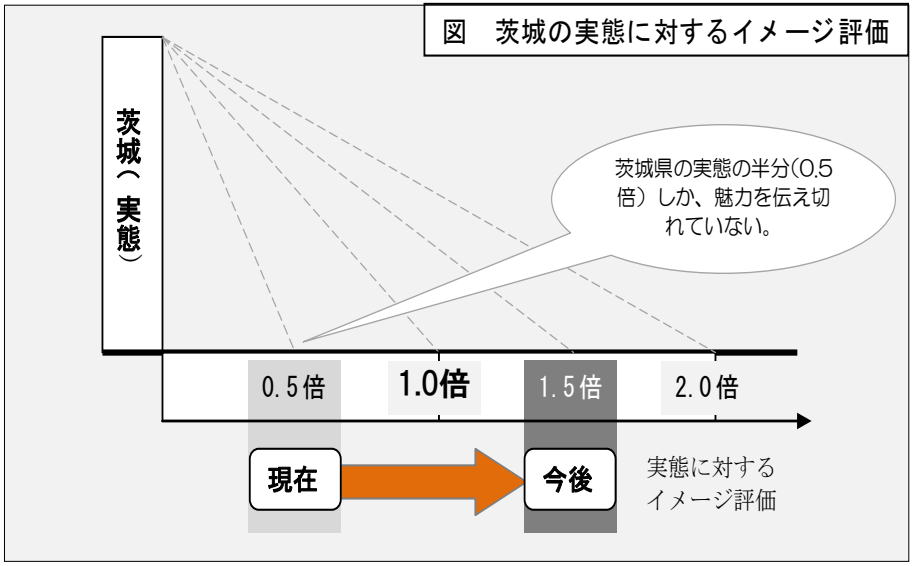
茨城産の風景のOEM供給



茨城県

イメージアップ戦略：自己満足で！

満喫し、実態の1．5倍か一歩半前くらいのイメージで！



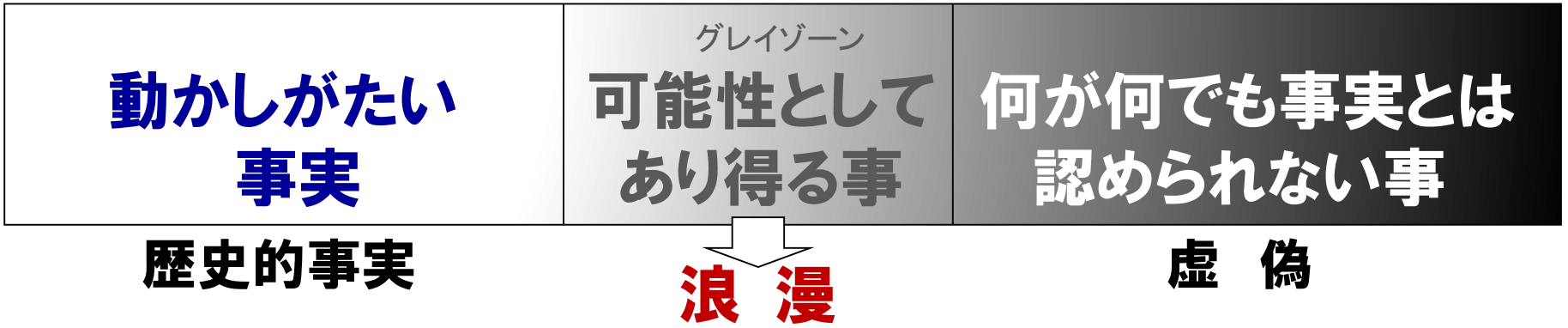
・何故、売り込まないのか（売り込めないのか）
幕末に盛り上がったが。
・・・その後の内部抗争で「蓋」
第二次大戦中に盛り上がったが。
・・・その後の敗戦で「蓋」
以来、水戸について語らない、語れない。
・・・郷土教育をもっと！
東京市場で高く売れれば十分？
・・・地元が満喫しなければ誇りにならない。
・・・イメージアップに繋がらない。

・水戸藩の宝：歴史と文化、自然（蓄財）
実は素晴らしい歴史と文化、豊かな自然　・・・消耗品ではない、蓄財としての資産
郷土教育は、もっと「郷土本位」に。
・・・自分たちが褒めないで誰が褒める？
・・・自画自賛・勝手に褒めて自慢しよう！

・幸福度とは？
薩摩の誇り：桐野利秋？　・・・薩摩では「人切り半次郎」も英雄！
・・・自己満足で！水戸を満喫すること！

歴史と浪漫

- **勝者の歴史と敗者の歴史？歴史は立場と解釈で様々？**
  過去に何があったのか。背景や動機を含め、必ず解釈が存在する。
- **歴史的史料からの解釈がすべて正しい？**
  「事実」は事実でも、個人的な背景や動機、想いは、本当のところは分からない。
- **時代考証とは？**
  時代考証とは、事実関係や道具や衣装、風俗や作法などが、その時代のものとして適当であるか否か。しかし、否定する史料が存在しない限りは、何がどうであっても間違いとは言い切れない（NHKエンタープライズの見解）。
- **浪漫主義**
  個性や自我の自由な表現を尊重し、知性よりも情緒を、理性よりも想像力を、形式よりも内容を重んじる。単に面白ければ、楽しければ良いというものではない。
- **歴史浪漫**
  だったらいいな・・・いやいや！ それでいいんだ！（嘘ではない範囲で水戸びいき）



水戸原理主義と浪漫主義的歴史観

・原理主義？

佐藤純彌監督(『男たちの大和』『桜田門外ノ変』)曰く。
「三上さん？彼は右翼でも左翼でもないよ」
「彼は水戸原理主義者さ」

原理主義とは。
基本的な理念や原理原則を厳格に守ろうとする立場。

・水戸原理主義

水戸は素晴らしい、という基本的な理念や原理原則を厳格に守ろうとする立場。
歴史の専門家ではない。しかし、水戸の個性の一番は、何といっても歴史。
水戸の歴史の中でも、水戸の果たした役割、それこそが水戸の個性。歴史上、特殊な役割も持つ水戸の個性ほど強い町はない。これをもっともっと活用しない手はない。
個性は究極の競争力。水戸のことを学ぶほどに、それを実感する。

・浪漫主義的歴史観・・原理主義的歴史浪漫

いくつかの事象から、個人的な背景や動機、想いを想像、想定することは、自由。
そしてそれは、否定する材料がなければ、決して間違いとは言えない。
むしろ、浪漫を持って肯定的に解釈しよう(自虐的な水戸の歴史観はやめよう)。
独自の解釈(浪漫主義的歴史観＝水戸原理主義的歴史浪漫)で、
ふるさと水戸に生まれ育ったことの誇りを伝える。

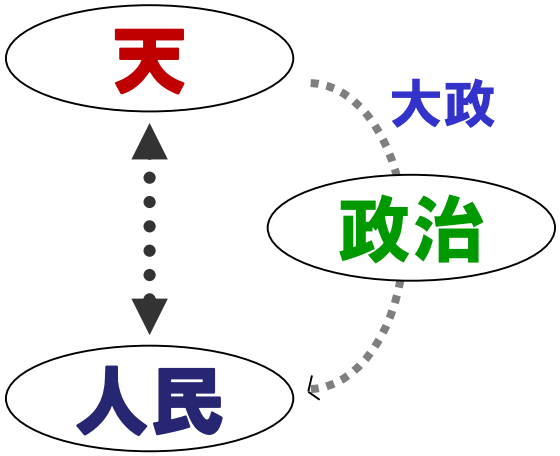
日本のかたち

・世界に誇る「変わらぬ国体」

國體：領土・人民・文化・宗教の相互関係。

古来からの日本の国の姿(≠大陸)。
不変(≠革命)の天と人が繋がる(尊王)。

そして基本は、
「民政自治(民が自分たちを自ら統治)」。
天と人民の間の政治は時代によって変わる。



・政治の主体・・桓武平家と清和源氏

	1192		1338		1568		1603		1868	
飛鳥・奈良・平安		鎌倉		室町		織豊		江戸		明治

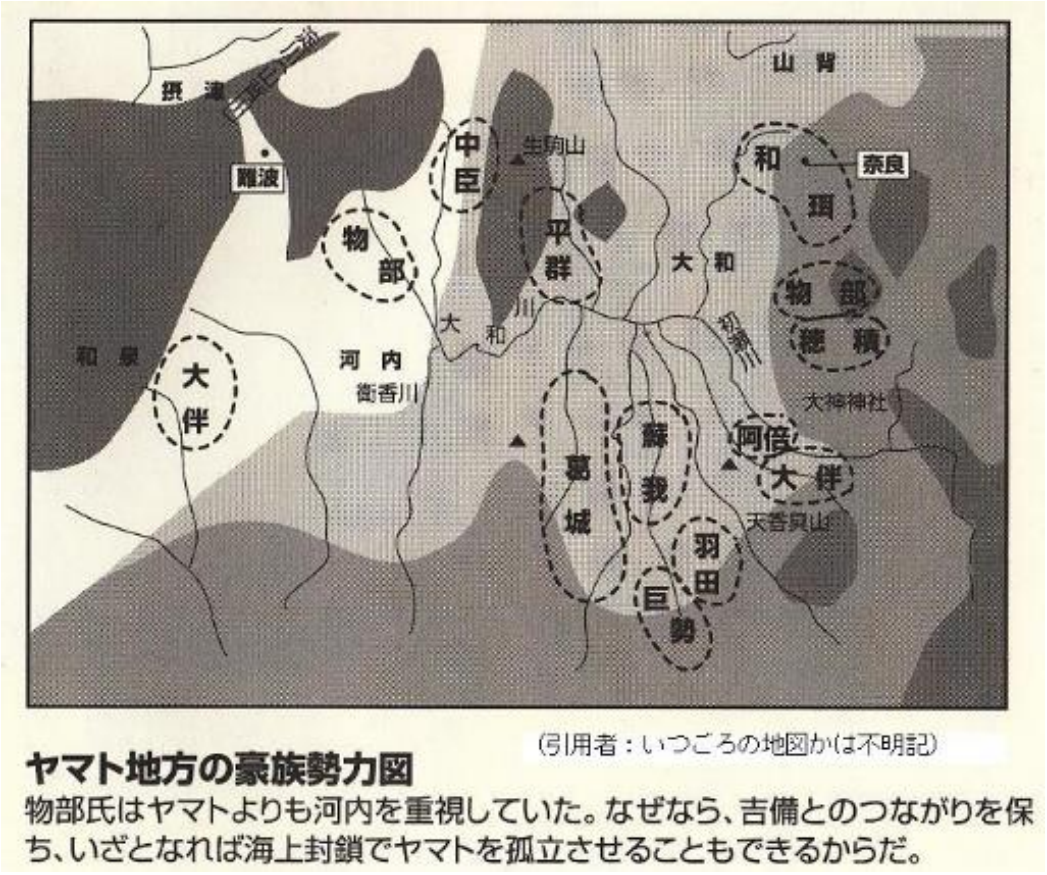
親政	藤原	平家	源氏	北条	親政	足利		織田	豊臣	徳川	親政
親政	藤原	平家	源氏	平家	親政	源氏		平家	藤原	源氏	親政
			↓			↓				↓	

征夷大将軍・・・・源頼朝・・・・・足利尊氏・・・・・・・・・・徳川家康

物部氏とその末裔

・物部氏と河内源氏

大和国山辺郡・河内国渋川郡あたりを本拠地とした有力な豪族。
神武天皇よりも前に大和入りした饒速日命が祖先と伝わる神別氏族。
鉱山、鍛冶、養蚕、機織、酒造などの最先端技術を倭国に伝播させた氏族。
河内人には物部氏の血が流れ、強大な源氏が河内国に興った。



(引用者：いつごろの地図かは不明記)

ヤマト地方の豪族勢力図
物部氏はヤマトよりも河内を重視していた。なぜなら、吉備とのつながりを保ち、いざとなれば海上封鎖でヤマトを孤立させることもできるからだ。

大江氏の教え

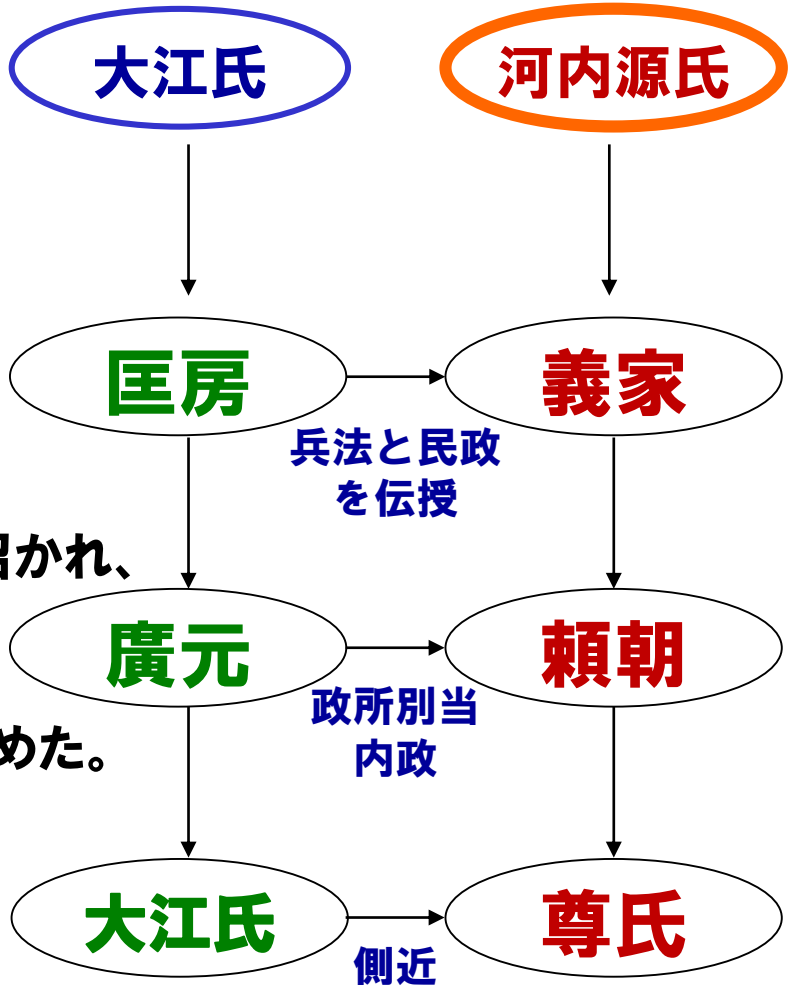
・大江氏と兵法と民政

平安時代以降、
中国兵書は文章道を家学とする大江家が管理。
大江家は「孫子」を秘書とし、
匡房が前九年・後三年の役で活躍した、
「八幡太郎源義家」に伝授したにとどまる。
一方で大江家は、
民政を重んずる「制度学」を家学とした。

匡房は八幡太郎義家にとって、
兵法のみならず民政の師でもあった。

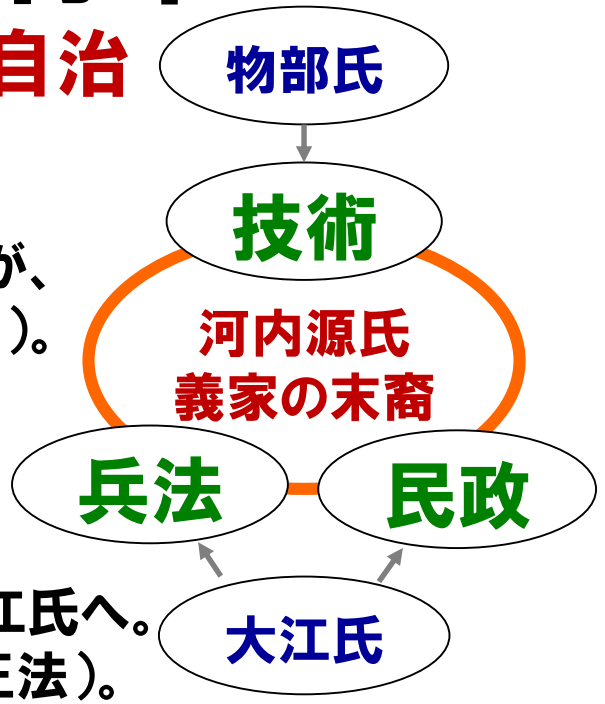
孫の廣元は頼朝によって鎌倉幕府政所別当に招かれ、
頼朝の覇業を内政面で支える。
貴族政治を改革し、
土地支配を地頭制の下に置き民力を豊かならしめた。
頼朝の在世中、名実ともに一歩抜きん出たNo.2。
頼朝死後も、北条義時を上回る正四位を得て、
名目的には将軍に次ぐ存在として遇される。

鎌倉幕府滅亡後も尊氏側近として室町幕府中枢にあった。



河内源氏と征夷大将軍

・河内源氏の実力＝経済力と兵法と民政自治



物部氏から伝わる技術力（経済力）

鉱山・鍛冶・養蚕・機織・酒造、そして職人を大切に。
先端技術（技術の伝承＝革新）を勢力範囲に納めることが、
経済力に（そのままの「市」、技術で「加工」、そして「交易」）。

孫子の兵法（軍事力）

前九年の役・後三年の役を勝ち抜く。

佐竹氏に伝わる田制理論（民政自治）

匡房の田制理論が義家から新羅三郎、甲州武田氏、渋江氏へ。
「渋江の田法」（土地の公平な分配と税の公平な賦課の正法）。

・河内源氏、八幡太郎義家の末裔のみが征夷大将軍に

征夷大将軍：鎌倉幕府の源頼朝、室町幕府の足利尊氏、江戸幕府の徳川家康

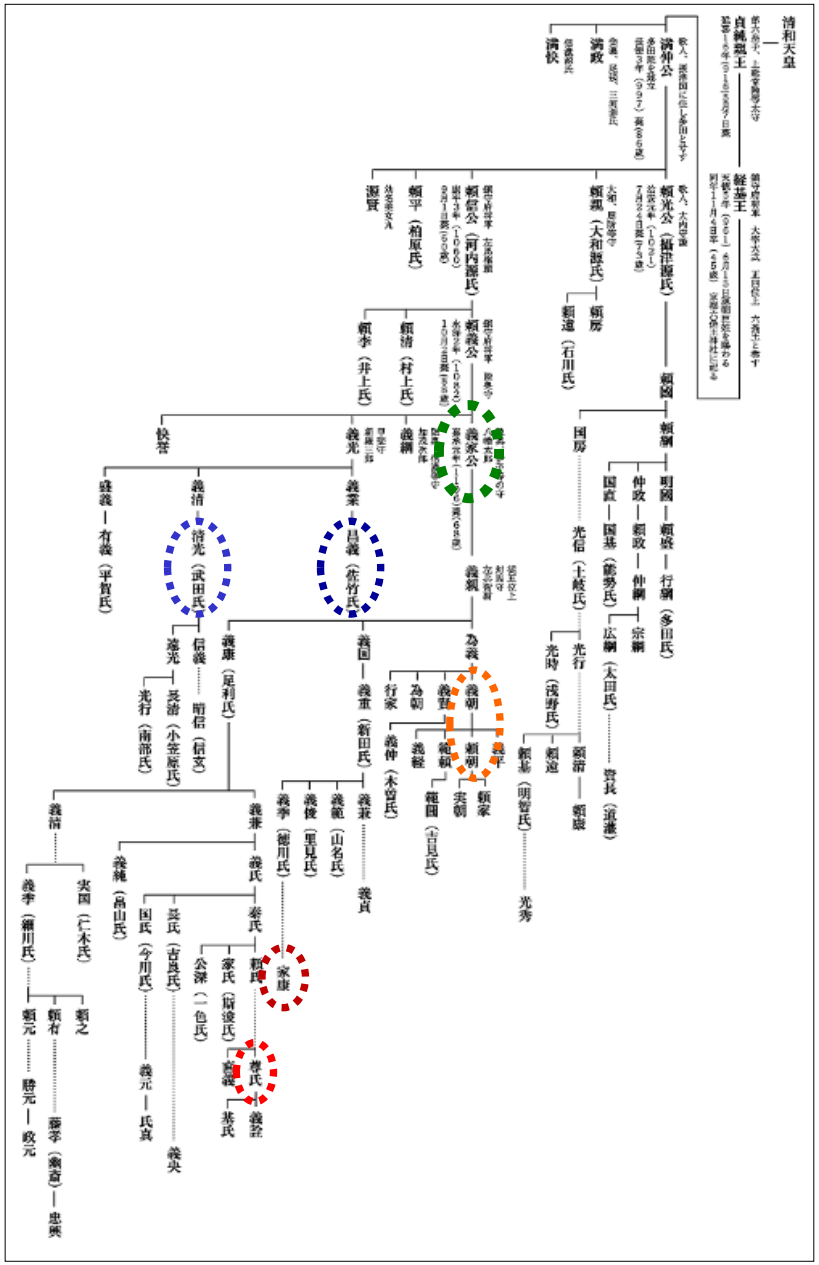
※朝廷から征夷大将軍に任命され幕府（軍政府）を開くことが許されるのは、大江匡房の教えを受け軍事力と経済力を背景に東国の民政自治に取り組んだ八幡太郎義家の末裔。

※戦国大名

源氏‥佐竹、武田、島津、山名、鍋島、今川、南部、最上、三好、尼子（徳川？）
平家‥北条、芦名、織田（徳川？）
藤原‥山内、上杉、伊達、豊臣、浅井、斎藤、龍造寺（徳川？）

水戸藩成立前夜

- **正真正銘の源氏・佐竹氏**
  佐竹氏は**源氏の血が濃い**。
  佐竹と武田は共に、
  新羅三郎義光（源義光）の血を引く、
  正真正銘の河内源氏である。
  徳川家は源氏と言ってはいるが、
  末端でしかない。
  （しかも本当かどうか分からない）
- **常陸國の国主・佐竹氏**
  正真正銘の河内源氏の
  佐竹氏が常陸國54万石の国主。
  （水戸藩主は国主ではない）
- **歴代開府将軍**
  頼朝:**義家**の子義親の子源為義の直系
  尊氏:**義家**の子義親の子足利義康の直系
  家康:**義家**の子義親の孫新田義重の傍流



水戸藩の成立

- **何故、常陸國か**
  伊達の押さえ？難治國だから？**鬼門封じ？**
  頼房公の性格を踏まえた？（近くに、しかも小さく）
- **常陸國の金山**
  佐竹氏の金山は、数え切れないほどある。
  武田信玄と並び、佐竹氏の鉱山開発は有名。
- **佐竹封じ込め作戦（ついでに経済力奪取）**
  出自に対する懸念から家康にとっては警戒すべき敵であるが、由緒正し過ぎて、滅ぼす訳にいかない。近くに置いておくのも気持ちが悪い。関ヶ原の合戦のあと**秋田転封**（幕末の会津のように）。
  水戸には佐竹に代わる松平（**武田**）信吉を（早逝）。
- **水戸家に武田の家臣団が同行**
  武田家**発祥の地**だから？ **兵法、技術、民政獲得**？
  家臣団活用で**佐竹氏残党に対抗**？

徳川光圀公（黄門さま）

・初代藩主頼房公（威公）

後陽成天皇の女御に仕えた乳母：生まれた時から皇室シンパ。
水戸藩の石高は少ないが、朝廷より高い官位を頂戴。
→ 勤王の家柄
　勤王 ＋ 御三家・・・尊王敬幕が水戸藩の基本スタンス
※分家根性、いざとなったら天皇方
　尾張藩初代藩主徳川義直公「王命に依って催され事」。
　水戸藩二代藩主徳川光圀公「我が主君は天子也、今将軍は我が宗室也」。
　「二男・三男は、くれぐれも譜代大名にはいかぬよう」。

・二代藩主光圀公（義公）

若き日の徳川光圀公（黄門さま）：次男だが世子に
　世子時代 「はすは者」・・・派手で浮ついた態度の者
　　「歌舞伎者」・・・人目につく異様な風体をなす者

司馬遷「史記」列伝の「伯夷伝」との出会い
　伯夷伝：家督をめぐり兄の伯夷と弟の叔斉が互いに譲り合い、結局二人とも国を捨てる。
　反省・自覚・立志：兄をさしおいて世子に選ばれながら、放埒な生活を送ってきた自分を顧み、深い反省の念を抱く。学問を志し、和漢の書について調査・収集をさせる。

大日本史編纂の背景

・光圀公（義公）による修史作業の開始

明暦三年（1657年）二月

三十歳の光圀公は、駒込の中屋敷の一隅に史局を開く。
以後、二世紀半にわたって継続される『大日本史』編纂の発端・・・幕末の水戸藩の礎

光圀公と大日本史編纂、その背景は？

徳川幕府の正統性・・・豊臣家から天下を簒奪した徳川家としての懸念
水戸徳川家の正統性・・正真正銘の源氏である佐竹に代わる領主としての懸念
世継ぎ問題と伯夷伝・・次男光圀公自身の世継ぎとしての懸念

・名分論　※歴史書を作りたかった？ 光圀公自身の名分論（正統性）を展開したかった？

名称と実質の一致を求めて国家社会の秩序を確立しようとする儒家の思想。
そこから生まれた「尊王敬幕」「南朝正統説」・・水戸学の誕生へ。

※幕府による朱子学をベースにした教育：忠義（本来、反乱を防ぐことが目的）に対し・・
徳を持って納める「王者」と、陰謀によって政権を簒奪する「覇者」。
その意味で、日本国の「王者」は天皇（象徴天皇の概念は水戸から）。
水戸藩の尊王思想は、王者・主君である天皇に忠義を尽くせば討幕も肯定しかねない。

・朱舜水（明の遺臣）と中華思想

明の滅亡（本家が潰れた・・日本に中心を）：王を殺す中国と日本は違う
浙江省から上海、そして長崎へ、水戸へ。　※上海（滬：氵+戸+邑）と水府（水戸）

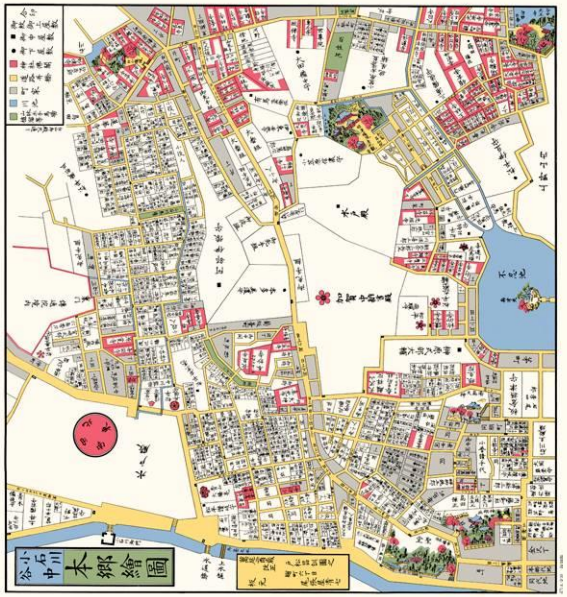
定府制が生んだ水戸藩の役割

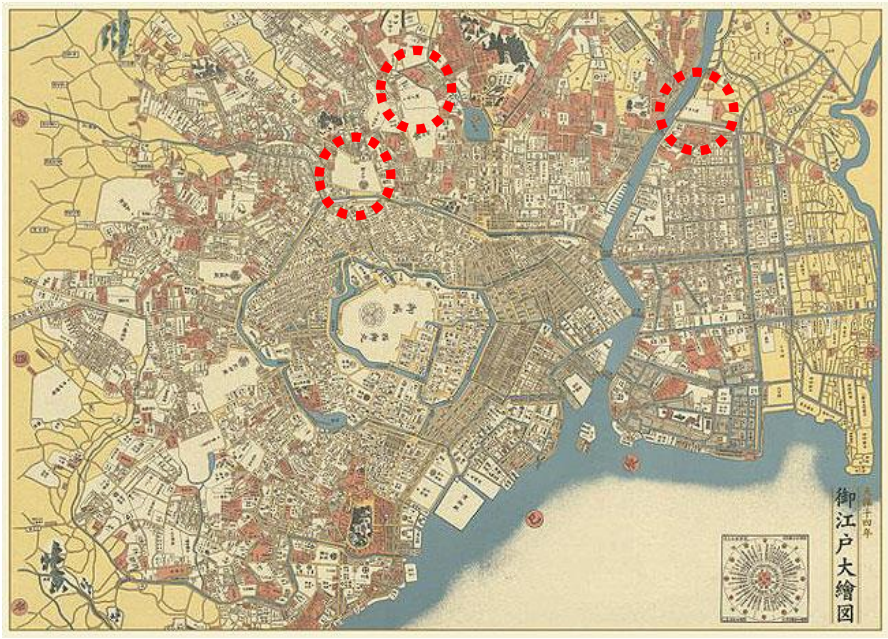
- **定府制**
  江戸と水戸の**二元政治**（江戸にいて旗本を監視。将軍をサポート）。
  参勤交代はないが藩勢・チーム力が弱い。
- **権中納言**
  将軍にはなれない家柄（延喜式の親王任国）
- **天下の副将軍**
  将軍に万一の時の代行？
  副将軍待遇の結果が定府制？（ご相伴）
  頼りにされた？恐れた？**別格**にして**温存**？

真田家のように？

- **関所がない**
  江戸に上り易い（江戸に上るのが特別なことである他藩とは違う）

江戸の「水戸藩」の意味





- **3つの藩邸**
  - 将軍のお膝元に藩邸。
  - 江戸の文化の中心。
    - 上屋敷は小石川
    - 中屋敷は本郷（駒込）
    - 下屋敷は向島（隅田）
- **水戸に文化はない？**
  - 殿不在の水戸に文化なし？
  - 水戸の文化の半分は江戸前。
  - 江戸で育った「水戸の文化」＝学問
    - ⇒ 江戸にいたから歴史編纂できた
    - ⇒ 御三家格が発言や調査を自由にした
    - ⇒ 定府制が水戸学を生んだ
    - ⇒ 国運を左右する「学問」と言う素晴らしい文化を生んだ
- **総交代の義**（1837年）
  - 江戸前の文化を水戸に「移植」。
  - 使命達成に向け「学ぶ・住む・遊ぶ」

水戸徳川家の役割

・天下の副将軍／天下のご意見番／監査役

徳川家康

権大納言	権大納言	権大納言	権中納言
義直（尾張家）	秀忠（将軍家）	頼宣（紀伊家）	頼房（水戸家）
	吉宗 ◀……	吉宗	
	家重	宗尹（一橋家）	
			斉昭
	慶喜（最後の将軍） ◀……	慶喜 ◀……	慶篤

・最後の最後の幕引き（大政奉還）は水戸の役割

家康公の再来としての決断・志を、薩長が潰す

天皇親政ではなく、徳川将軍家を事実上の元首とし、江戸幕府に代わる諸侯会議を招集し、国家改革の主導権を執る事を狙った。

定府制が生んだ「幕末の水戸」

- **水戸藩、幕末の役割**
  副将軍格が生んだ水戸の「本当の役割」は？
- **天下の副将軍家としての矜持**
  幕政改革・世直しに対する気概（藩士から庶民までが「江戸に上る」）
- **二元政治が生む派閥抗争：天狗・書生（諸生）と殿**
  天狗派と書生派（門閥派）の**派閥抗争**と水戸の不幸（殿の不在）
  他藩（薩摩・長州・土佐）との違い（内紛はどこの藩でも発生した）
  他藩では、殿自身が直接、派閥抗争の仲裁に入り、方向を示す。
  水戸藩では、殿から見れば「**遠い田舎の下々の争い事**」。
  リーダーの不在が幕末水戸藩の不幸を生んだ。

リアリズム・実務の**書生派**
理念・行動の**天狗派**

- **将軍になれない家柄**
  外部取締役、または**監査役**
- **必然としての最後の将軍**
  家康公の描いた「幕末」（**必然？朝廷側として生き残り？**）
  天下の副将軍（監査役）の**最後の仕事**としての大政奉還（幕引き）

斉昭公の目指したもの

- **斉昭公の生誕（１８００年）**
  水戸光圀公の死（１７００年）から１００年後
  斉昭公の覚悟：この国のために水戸は何をすべきか
- **人材登用＝学問＋産業革命（＋派閥抗争）**
  水戸学＋富国強兵（幕末の産業革命）＋天狗と書生（諸生・門閥）
- **総交代の義（１８３７年）学住遊の３点セット（水戸に江戸を）**
  ※江戸発祥の成熟した水戸文化

藩主になると反対派を排除、弘道館を創設し、天皇に忠義を尽くし藩政に役立つ人材を育成。
（尊王集団の形成）

１８３６年
新屋敷（住）
LIVING
松の小路・桜の小路・桐の小路・梅の小路・楓の小路・桃の小路・柳の小路。

１８４２年
偕楽園（遊）
LEISURE
古の人は民と偕に楽しむ、故に能く楽しむなり」という中国の古典『孟子』の一節から。

１８４１年
弘道館（学）
LEARNING
医学・薬学・天文学・蘭学など幅広い学問を採り入れた総合大学。当時の藩校として国内最大規模。

学住遊の3点セット

•学住遊の3点セット（3L）が学府・水戸を創る（後期水戸学）

新屋敷
Living

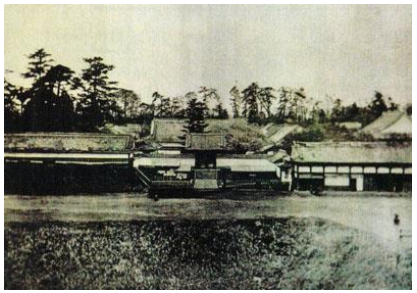
住：ニュータウン

•「和」は平和の和？
　足し算の和！
•「和」の集まり＝大和

3点セット
（質の高い会議の場）

日本は和の国＝足し算の国＝コンセンサスの国
（仏教、稲作、漢字、呉服）
一番良い形で日本の文化の中に取り入れる

外部から良いものを都合よく取り入れながら
その一方で本質・日本らしさは失わない



↓

足し算の国の伝統が学府・水戸、水戸詣でを生み
3点セットがその受け皿に

学：総合大学

弘道館
Learning

一張

↓

一弛

偕楽園
Leisure

遊：保養場

維新回天に向かって走り出す

水戸学の2本柱

・水戸学

尊王敬幕（徳川幕府の正当性）と南朝正統説（三種の神器）

尊王敬幕（佐幕・立て直し）

皇室を尊び、皇室から正式に大政を委ねられている幕府を敬う。

頼房公以来の尊王思想（皇室からの信頼、奥方と皇室、そして密勅）＋ 徳川家の正統性。

尊王敬幕は御三家としては当たり前の立場。

譜代筆頭の彦根、親藩の会津、御三家の水戸は尊王敬幕で一致（立場の違いが対応の違いに）。

彦根会津水戸が団結すれば薩摩長州土佐に勝てた。幕政改革が限界、列藩合議制、そして逆賊へ。

南朝正統説

南北朝時代に分かれた皇統は、後醍醐天皇の南朝を正統とする。

血縁的繋がりより三種の神器の継承それ自体を重視。神戸市湊川神社「嗚呼忠臣楠子之墓」。

・薩摩長州土佐：明確な思想がない外様を走らせたものは？

西郷隆盛と南朝正統説：熊本の菊池家（南朝の将軍）は薩摩の西郷のご先祖。

吉田松陰と南朝正統説：長州は南朝の末裔を田布施町に匿う（その町内から伊藤、岸、佐藤らが）。

坂本龍馬と北辰一刀流：千葉道場免許皆伝・塾頭。

北辰一刀流（玄武館）の開祖は、千葉周作成政竜。北辰一刀流の最大のスポンサーは、水戸徳川家。神道無念流とともに弘道館の新興流派で、桜田烈士の剣脈となる。
現代における北辰一刀流の正式な後継は、水戸の東武館。
北辰＝北・・玄武館、それに対して東の水戸東武館。

薩摩長州土佐の「水戸詣で」

・維新回天の思想的バックボーン＝水戸学

何故、水戸藩が注目されたのか。幕政や外国に対する解決策を持っているのは水戸藩のみ（大演習や大型船の建造、対応の製造など）。御三家なので謀反には見えず、発言権も大きかった。

薩摩藩：西郷吉之介

小石川の水戸藩邸にて藤田東湖に教えを請う。

「水戸には大変お世話になりました」

歴史を学んだ薩摩土佐の人の言葉。

長州藩：吉田松陰

水戸にて会沢正志斎に教えを請う。

土佐藩：坂本龍馬

江戸・桶町の北辰一刀流の千葉道場にて剣術を学ぶ。
（塾頭・免許皆伝）

※千葉道場のスポンサーは水戸徳川家。頭のてっぺんからつま先まで水戸学に染まる。

『桜田門外ノ変』の意義

- **安政七年（１８６０年）三月三日**

季節はずれの大雪の中、水戸藩士１７人、薩摩藩士１人、総勢１８人が、江戸城の桜田門外で、大老井伊直弼を襲撃する事件。

江戸城の真ん前で、時の首相である大老を、しかも、関が原以来、徳川軍団の中でも最強の誉れ高い譜代筆頭の赤備え・彦根藩の藩主を、御三家の水戸藩を中心としたたった１８名の浪士が襲撃したもので、**幕府の権威が大きく崩れ去った事件**。

国会前で、首相が、しかも統合幕僚長出身が、保守党議員の、たった１８名に・・。

- **時代を大きく動かした幕末の大事件**

事変から７年後が大政奉還、そして王政復古の大号令へ。
維新回天と、現代につながる**日本の近代化のきっかけ**となった事件。
日本の夜明け、そしてアジアの夜明けとも言うべき事件。

時代が動く、志士が走る

- **テロ？クーデター未遂？**
  大化の改新は？　忠臣蔵は？　新撰組は？　2.26事件は？

- **司馬遼太郎『幕末』**（1963）

（本文より）暗殺という政治行為は、史上前進的な結局を生んだことは絶無といっていいが、桜田門外ノ変だけは、例外といえる。明治維新を肯定するとすれば、それはこの桜田門外からはじまる。斬られた井伊直弼は、その最も重大な歴史的役割を、斬られたことによって果たした。三百年幕軍の最精鋭といわれた彦根藩は、十数人の浪士に斬り込まれて惨敗したことによって、倒幕の推進者を躍動させ、そのエネルギーが維新の招来を早めたといえる。この事件のどの死者にも、歴史は犬死させていない。

（あとがきより）歴史はときに血を欲した。好ましくないが、暗殺者も、凶手に斃れた死骸も、ともにわれわれの歴史的遺産である。・・・書き終わって、暗殺者という者が歴史に寄与したかどうかを考えてみた。
ない。
ただ、桜田門外ノ変だけは、歴史を躍進させた、という点で例外である。これは世界史的にみても珍しい例外であろう。その後、幕末に盛行した佐幕人、開国主義者に対する暗殺は、すべてこれに影響された亜流である。暗殺者の質も低下した。桜田門外の暗殺者群には、昂揚した詩精神があったが、亜流が亜流をかさねてゆくにしたがい、一種職業化し、功名心の対象になった。

維新回天へ

・時代の空気を変える大事件

幕末を意識：今って、ひょっとすると幕末？「幕末（終わり）」の実感
維新回天を意識：幕政改革から討幕、そして「維新回天（始まり）」へ

・関ヶ原の恨み

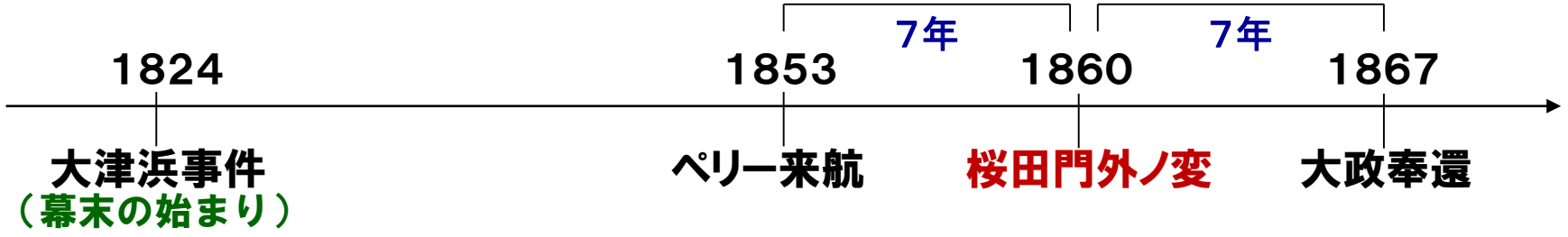
関ヶ原の西軍（外様）：いつかは我が世。
水戸の「世直し」が討幕へ。
「王者」と「覇者」の違い。

・南朝勢が走る

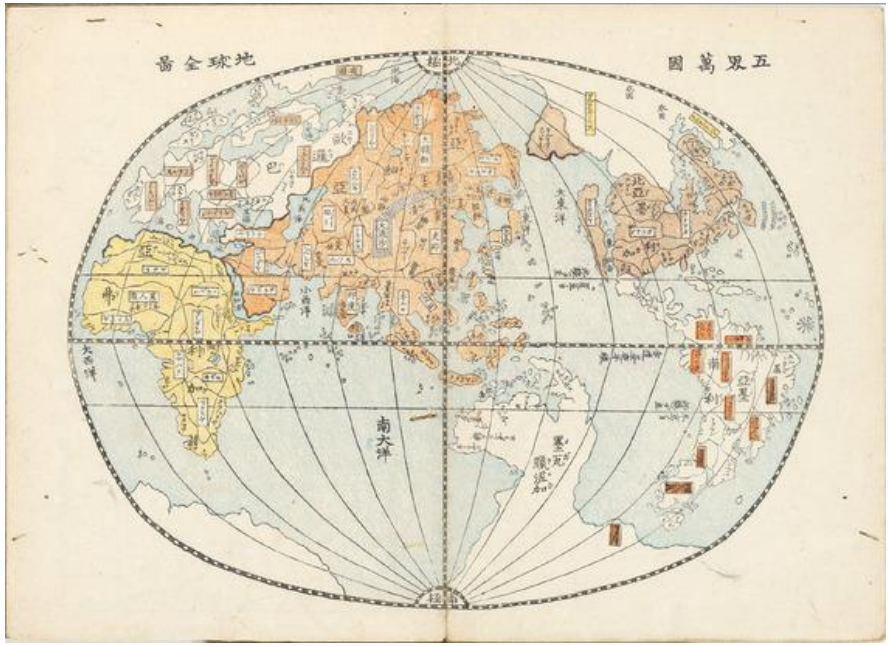
走る志士たち。走らせた水戸藩。

・維新回天へ

尊王敬幕・幕政改革から尊王攘夷、尊王討幕へ
～ゆっくりの７年。駆け足の転がり落ちるような７年（事件が多い）～



幕末年表



1824 大津浜事件。
1825 外国船打払い令。会沢正志斎、新論(尊王攘夷論)を著す。
1828 シーボルト事件。
1833 天保の大飢饉。
1836 新屋敷完成。
1837 総交代の義。大塩平八郎の乱。モリソン号事件
1839 蛮社の獄。横井小楠、江戸にて藤田東湖に学ぶ。
1840 阿片戦争(～1842)。➡欧米列強による植民地獲得競争
1841 天保の改革。弘道館開設。
1842 偕楽園開設。
1843 英サマラン号八重山諸島に上陸し測量。
1844 仏アルクメーヌ号、琉球に来航。蘭王親書を送り開国を勧告。
1845 仏サマラン号長崎に来航。米捕鯨船浦賀に来航。
1846 孝明天皇即位。米東印艦隊司令官ビッドル浦賀に来航し通商条約要求。
1849 英軍艦マリナー号浦賀・下田に来航し測量。
1851 ジョン万次郎米船で帰国。吉田松陰来水、会沢正志斎に教えを請う。
1852 蘭商館長クルティウス、蘭風説書にて米艦隊来航を通告。
1853 米使節ペリー来航。家慶死去。露プチャーチン長崎に来航。家定将軍に就任。坂本龍馬、千葉道場に入門。
1854 ペリー再来航。日米和親条約。露プチャーチン下田に来航。西郷隆盛、江戸にて藤田東湖に学ぶ。
1855 安政の大地震。
1856 ハリス下田に着任。松陰が松下村塾を開く。家定、篤姫と婚儀。アロー戦争(～1860)。 ➡英国内でアジアへの横暴を許さない国論
1857 軍艦操練所設立。下田協約。咸臨丸長崎に到着。ハリス家定に謁見。
1858 廷臣八十八卿列参事件。孝明天皇条約拒否。直弼大老。日米修好通商条約。安政の大獄。家定死去。斉彬急死。戊午の密勅。家茂将軍に就任。
1859 初代英公使オールコック着任。神奈川・長崎・箱館を開港。初代仏公使着任。グラバー来日。
1960 咸臨丸渡米。桜田門外ノ変。米通訳ヒュースケン暗殺。成破の盟約。
1861 露ポサドニック号事件。長崎製鉄所完成。第一次東禅寺事件。文久遣欧使節。南北戦争(～1865)。 ➡米国の日本に対する影響力が低下
1862 坂下門外の変。和宮降嫁。寺田屋事件。第二次東禅寺事件。慶喜将軍後見職。慶永政事総裁職。生麦事件。容保京都守護職。英公使館焼き討ち。
1863 新選組結成。家茂上洛。下関戦争。薩英戦争。会薩同盟。天誅組の変。八月十八日の政変。七卿落ち。
1864 家茂再上洛。天狗党の乱。池田屋事件。禁門の変。馬関戦争。第一次長州征伐。
1865 天狗党処刑。新選組西本願寺に。五代ら英留学。第二次長州征伐。
1866 薩長連合。家茂死去。慶喜将軍に就任。孝明天皇崩御。
1867 明治天皇即位。船中八策。山内豊範、大政奉還建白書。討幕の密勅。大政奉還。近江屋事件(劉馬暗殺)。王政復古の大号令。薩摩藩邸焼き討ち。
1868 五箇条の御誓文。戊辰戦争。慶喜大坂城脱出。勝西郷会談。江戸城無血開城。奥羽越列藩同盟。明治改元。奥羽越列藩同盟瓦解。箱館戦争。
1869 箱館戦争終結。

光圀公の志が天下を動かす

・水戸家秘伝の家訓・庭訓（烈公から慶喜公への教誡）

予が二十歳ばかりの時なりけん。烈公一日予を招きて、「おほやけに言ひ出だすべきことにあらねども、御身ももはや二十歳になれば心得のために内々申し聞かすなり。我等は三家・三卿として、幕府を輔翼すべきは今さらいふに及ばざることながら、もし一朝事起こりて、朝廷と幕府と弓矢に及ばるるがごときことあらんか、我等はたとへ**幕府に反くとも朝廷に向かひて弓引くことあるべからず**。これ**義公**以来の家訓なり。ゆめゆめ忘るることなかれ。」と宣へり。

※だから将軍になってはいけなかった？だから将軍になった？

・水戸の礼節と純粋さ

本来将軍にならない水戸家。朝廷と戦わない水戸家だからこそ、総大将が引き、江戸城無血開城を決意することが出来た。

幕末の慶喜公の姿、藩士・領民の姿。

純粋さを最後まで貫いた水戸藩と、政治屋として**変節**する薩摩長州。

万延元年八月、長州の桂、伊藤、松島と水戸の西丸、岩間、園部、越惣の間で「**成破の盟約（丙辰丸の盟約）**」が結ばれる。西丸は、「破（暗殺）と成（幕府への忠諫）どちらを選ぶか」と桂に求めた。桂は「破は難い」と答えたため、西丸は「然らば拙者が難きを取る」。水戸は過去の一切を破壊し尽くす。その代り、長州はすぐさまそのあとに日本の明日を築く。

幕末水戸志士の生き様

- **水戸っぽ**

  怒りっぽい
  飽きっぽい　→
  理屈っぽい

  直情的？成破の約？
  大河「篤姫」の斉昭公？進取の気鋭？
  純粋さの表れ？学問のまち？

- **童門冬二『井伊大老暗殺』**（1992）

明治維新政府がどこかに置き忘れた初心、理念は、
たしかに存在していたのである。
井伊暗殺隊はその理念にしたがった働きであって、
全体ではない。
維新史では「薩長連合」だけが喧伝されているが、
幻の連合に終わったこの「水薩連合」の実相は、
幻に終わっただけに、発掘の価値がある。
そしてその“核”になっていたのが、「純粋さ」だ。
この企て（桜田門外ノ変）は、
はじめから終わりまで“純粋な人々”によって“純粋に実行”された。
だからその後の人と組織によるダーティな“政治技術”によって、つぶされた。

フルベッキ写真の謎

本物？偽物？いずれにせよ、
水戸は簒奪集団には組しない。

幕末明治を代表する維新志士・オールスター（薩摩・長州・土佐・肥前・公卿・幕閣）

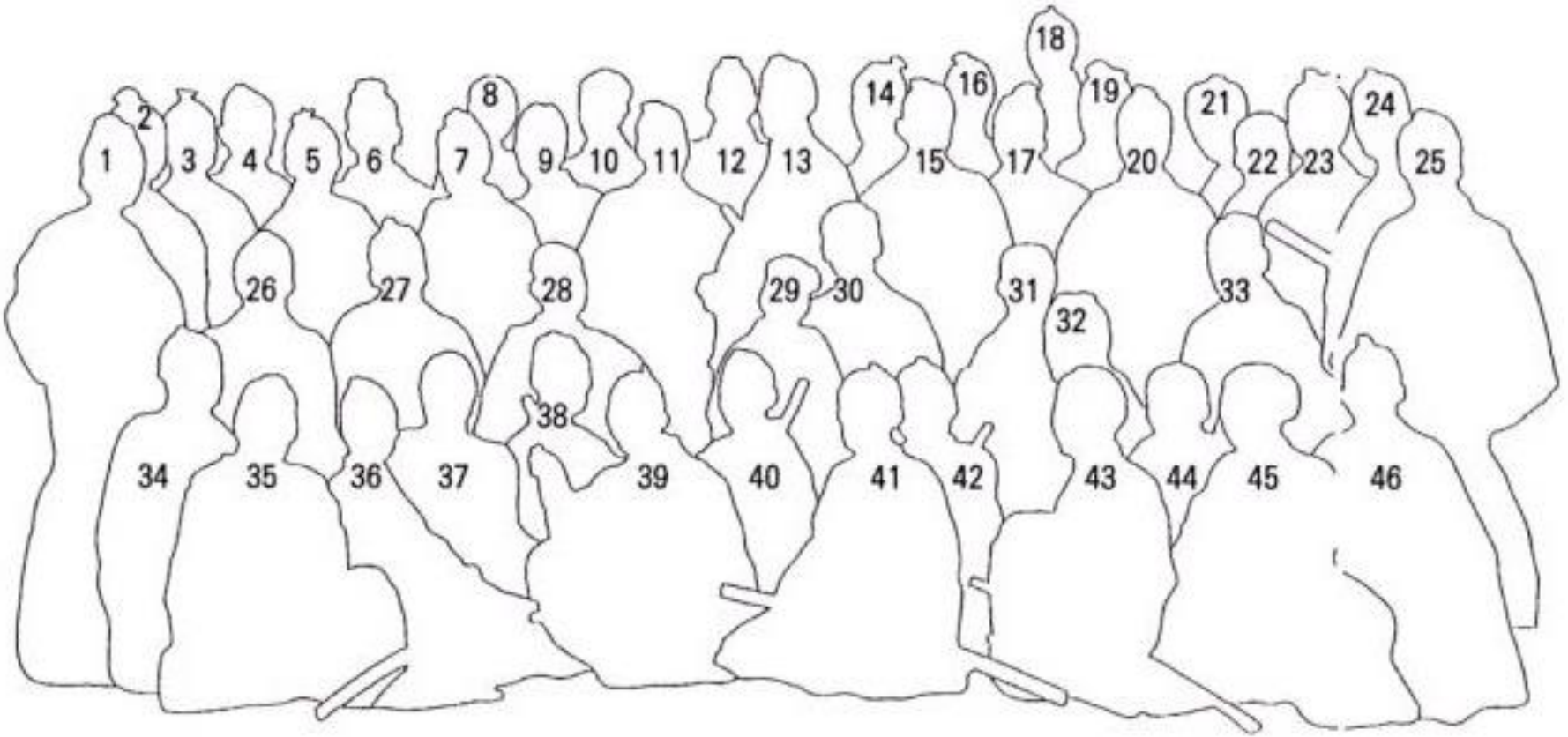
慶応元年２月中旬から月中旬 長崎でのフルベッキ先生の時局講演会（西郷主催）

水戸藩関係者は写っていない（水戸藩の純粋さとは対極の、変節を厭わぬ政治屋たちのみ）

水戸藩と簒奪集団（グラバー邸の屋根裏）：大日本史編纂の精神から簒奪は許されない

尊王敬幕から尊王攘夷、そして尊王討幕。礼節・至誠一貫の観点からは疑問（篤姫の想い）

1. 勝 海舟
2. 中野 健明
3. 中島 信行
4. 後藤象二郎
5. 江藤 新平
6. 大木 喬任
7. 井上 馨
8. 品川弥二郎
9. 伊藤 博文
10. 村田 新八
11. 小松 帯刀
12. 大久保利通
13. 西郷 隆盛
14. 西郷 従道
15. 別府 晋介
16. 中村 宗見
17. 川路 利良
18. 黒田 清隆
19. 鮫島 誠蔵
20. 五代 友厚
21. 寺島 宗則
22. 吉井 友実
23. 森 有禮
24. 正岡 隼人
25. 陸奥 宗光
26. 中岡慎太郎
27. 大隈 重信
28. 岩倉 具綱
29. ウィリアム
30. フルベッキ博士
31. 岩倉 具定
32. 高杉 晋作
33. 横井 小楠
34. 大村益次郎
35. 桂 小五郎
36. 江副 廉蔵
37. 岩倉 具経
38. 岩倉 具慶
39. 広沢 真臣
40. 大室寅之祐
41. 岡本健三郎
42. 副島 種臣
43. 坂本 竜馬
44. 日下部太郎
45. 横井左太平
46. 横井 太平



常陸國・水戸の位置

・多様な文化の結節点（和の国の特性が凝縮）：日本の雛型たる常陸國

混住社会と異文化交流の地が常陸國：常陸國の南北＝気候変動の幅：南限北限
5つの民族の移住の地：希人（客人）文化と雪だるま文化（重層性）

①北方縄文人（落葉広葉樹：ナラバヤシ文化圏）～麻生
12000年前（縄文草創期） 寒冷で暖を求めて南下
狩猟採集（山が肥えている）：ツングース・ギリヤーク人（米へ移住）

②大陸系縄文人（常緑広葉樹：照葉樹林文化圏）～山方宿
8000年前（縄文初期） 温暖化で食を求め北上
焼畑耕作（土地が痩せている）：秦氏（畑作・機織技術）

③海民（メラネシア：黒潮文化圏）～北茨城
5000年前（縄文中期）
魚食文化：黒潮親潮の邂逅（4大漁業）

④弥生人（大陸系稲作民）～久慈川
2700年前（縄文晩期～弥生期）
稲作文化：関東平野（久慈川以南）

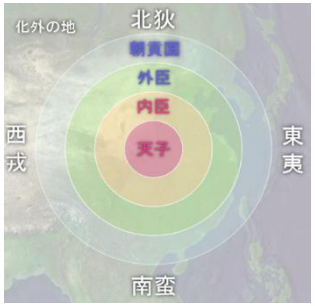
⑤騎馬民族（大陸系狩猟民）～石岡
1800年前（朝鮮半島経由）
肉食文化：マキ（牧）

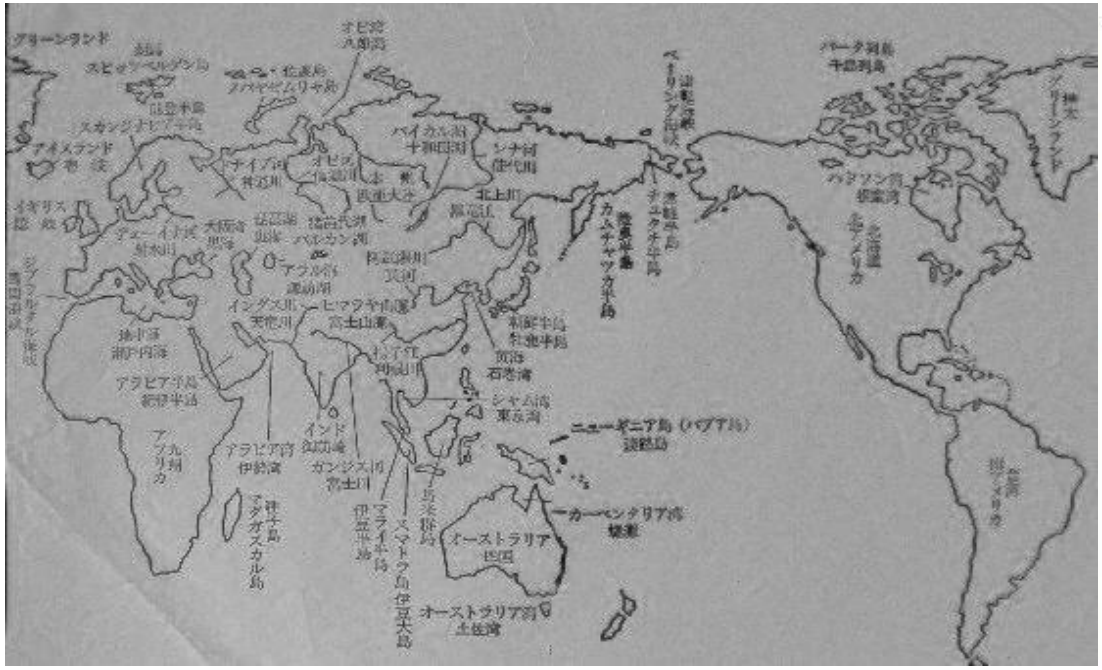
古事記空間と常世の国
日向、京都、江戸の鬼門

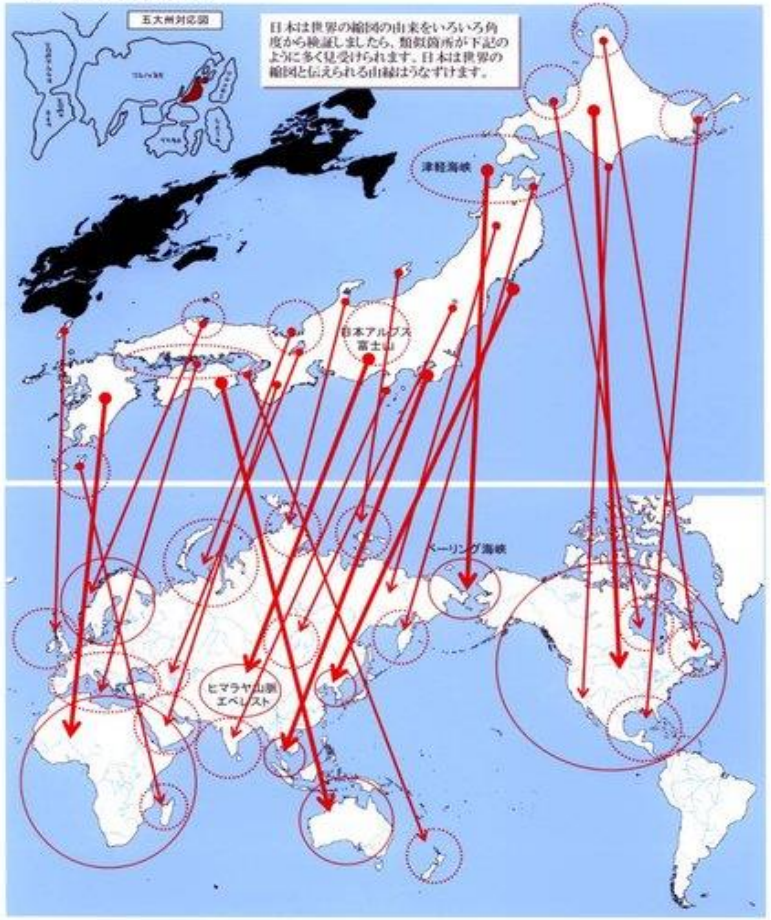
中華思想と世界の縮図

- **中華思想**
  - 中国王朝が**宇宙の中心**であり、その文化・思想が神聖なものであると自負する考え方
- **世界の縮図と中華＝常陸國**
  - 黄河（阿武隈川？久慈川？）
  - 長江（利根川？那珂川？）
  - その間の中原（常陸の國）
  - **滬・上海（水戸）**

世界地図を変形編集

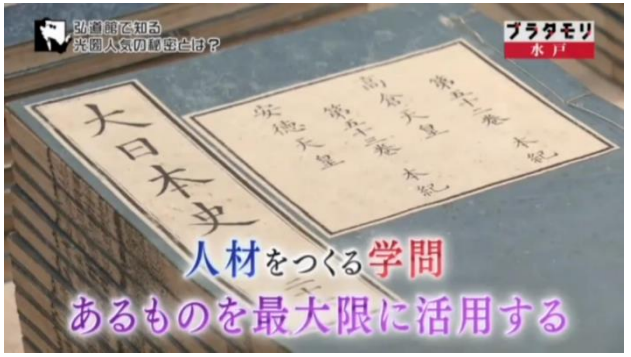






『ブラタモリ』水戸藩精神

・あるものを活かす：門・土塁・堀・水・石・人・千波湖



龍安寺の「知足の蹲踞」

吾唯足るを知る

知足の蹲踞（つくばい）：茶室蔵六庵の露地にある。
蹲踞は茶室に入る前に手や口を清めるための手水鉢のこと。
水戸藩主徳川光圀公（黄門様）の寄進によるもの。
「知足のものは貧しといえども富めり、不知足のものは富めりといえども貧し」という禅の格言を謎解き風に図案化したもの。

欲しがり屋さんでは、どこまで頑張っても豊かになれない。
幸せになれない。ないものねだりは不幸になる。
結果としてあるものを受け入れ、それを活かす常陸國の土壌。
和（足し算）の文化：あるものを雪だるま式に使って、暮らしの豊かさに。

彰考館哲学　過去と未来の和

・彰考館

二代藩主徳川光圀公が、明暦三年（1657年）修史のために江戸駒込邸内に創設した史局。寛文十二年（1672年）小石川の藩邸に移したのを機に、彰考館と命名。

・彰往考來　過去の歴史を未来に活かす

「彰往考来」という言葉に由来。歴史を単なる学問の対象とするのではなく、過去を彰かにする（彰往）ことは、未来を考える（考来）ためであるという原理が根底にある。

・全国からの英知と資料を集める　英知を結集し活かす

全国各地から多くの学者が集められ、また資料収集のために全国に館員を派遣。水戸にも史局を造営、編纂は約250年間に及び、明治三十九年（1906年）に完成。

・徳川光圀公の思い

公正で偏りのない目で歴史をもう一度捕らえ直すことにより、大義を明らかにし人心を正し善悪をはっきりさせ、社会の秩序を正しく保つ。常に過去を検証し、その時代時代に合った「大義」を明確にしておく。そして物事を起こすにあたり、広く情報を集め、多面的に調査分析し、そのうえで人の心を信頼して判断し、それを未来、世直しへ繋げてゆく。

弘道館精神　藩の枠組みを越えた人の和

- **弘道館**

九代藩主徳川斉昭公（列公）が天保十二年（1841年）に創設。江戸時代最大の藩校。国家の独立と発展を全うするために優れた人材を育成。儒学・武道だけでなく、医学・数学・天文学（**技術**）など多彩な教科が講ぜられた。

- **実学**　学問の成果を社会に活かす

現実に適応できるかどうかという**実学の視点**を重視。現実に生かす実践的な立場から検証を繰り返す。有為な人材は試験に上げる画期的システムを有する。

- **弘道**　人が集う

道を弘める人の集う社会を意味する。天下国家を論じる有為の人材がここで生まれ、維新回天の原動力となった。自立や実践、気概を説く理性的な精神が弘道館精神の神髄だと言える。

- **水戸詣で**

水戸徳川家という幕藩体制の一翼を担う枠組みの中にありながら、欧米列強による植民地獲得競争が行われている世界情勢を直視した人々が**集う場**でもあった。水戸の独自性を強烈にアピールしながら、日本の自立が危ういことを自覚した人々が、藩の枠組みを越えた全国レベルでの議論を交わした。

偕楽園思想　上下の和・自然との和

- **偕楽園**

天保十三年（1842年）斉昭公が「**民と偕に楽しむ**」場所として開設。兼六園、後楽園と並んで日本三名園の一つ。毎年梅の咲く季節に多くの人々が訪れる。

- **天下の魁**

梅の花は、天下に先駆ける水戸の気概を象徴する。

- **一張一弛**　対極的な概念を一対のものとして繋ぐ

弘道館での学びの緊張（**一張**）のあとの、精神の安らぎ（**一弛**）をテーマとして作られている教育施設。偕楽園と弘道館は対をなす施設。**游於藝**という言葉にも象徴される。

- **偕楽**　ともに楽しむ

「偕楽」という名前に象徴されるように、身分制度の厳しい江戸時代にあって、一般庶民も指定された日ならば入園が許可された。偕楽園が発する思想には、**民政の基本とおもてなし**の心が根底にある。

この心は、かつて光圀公が藩内巡視によって、庶民が病気や怪我のときに、薬の入手や医者の治療を受けられないことを知り藩医・穂積甫庵に命じ、簡単に入手できる薬草や入手は多少困難でも実効性がある薬草の処方を記した本『**救民妙薬**』を作らせましたことに通ずる。この本は、庶民のために野山の草木、動物など手に入るものを利用して薬を作ることや日常の健康法などをまとめたもので、解りやすい言葉で書かれている。

水戸の心

此國になきものをは、其國より此國へ　異文化の導入

光圀公は他国の産物を導入することが好きで、当時の記録に「其国にて有て此国になきものをば、其国よりこの国へ御うつしなされ」とある。

彰往考來　過去と未来を繋ぐ

晋代の杜預『左史伝』序の「彰往考来」に拠ったもので、「過去をあきらかにして未来を考える」という意味。

継往開來　先人の事業を未来に繋ぐ

光圀公の、史料に対する基本姿勢。「先人の事業を受け継ぎ未来を切り開く」のいう意味。

衆集思宣群力　衆思を集める

弘道館記の中の言葉。衆思をあつめて群力を宣ぶ。

一張一弛　対極的な概念を一対のものとして繋ぐ

偕楽園記の中の言葉。時には厳格に、時には寛容に生きるべきという儒学の思想。厳格に学問に励む場所が弘道館。藩主から武士、領民までみんなで楽しむ場所が偕楽園。

游於藝　一張一弛同様に対極のものを繋ぐ

弘道館の対試場に面した正庁の長押に掲げられている扁額。斉昭公書で「游於藝（げいにあそぶ）」と刻まれている。「論語」述而篇の一節「子曰　志於道　據於德　依於仁　游於藝」（子曰く　道に志し　徳に拠り　仁に依り　芸に遊ぶ）による。「游於藝」の「藝」は六芸（りくげい）、礼（儀礼）、楽（音楽）、射（弓術）、御（馬術）、書（習字）、数（算数）を指す。「文武にこりかたまらず悠々と芸をきわめる」という意味がある。

梅は春の魁　水戸は天下の魁

弘道館に梅花を賞す　徳川景山作

弘道館中千樹梅　　清香馥郁十分開　　好文豈謂無威武　　雪裡占春天下魁

※弘道館にはおよそ千株の梅の木がある。今満開で、清らかな香りがあたりに漂っている。晋の武帝が学問を好むと梅の花が開き、学問をやめると咲かなくなった故事から、梅を好文木と称するようになった。その一面、武の威力が梅にないといえようか。厳しい寒中に雪を冒して独り咲き出でて、天下の春のさきがけをなすのは、まさにこの花である。

和(足し算)の国・日本(大和)

- **3つの間**
  - **時間**:和暦・・太陽暦と太陰暦を合わせたもの(太陰太陽暦)
    いつも決まっているものではない。自分たちの生き方で変わるもの。
  - **空間**:風水・陰陽五行・・大陸の東端・大洋の西端:自然の摂理との関係性、縁
  - **人間**:礼法・・**混住の地**での「人の結界」を渡る
    文化が混住する際に摩擦を生じさせない
- **精神世界**
  - モノーカミーホトケ:マナ文化～神～仏教(冠婚葬祭)→自然観:どこにでも神は宿る
    ロハスの概念:時間や空間、人間の枠を越えた共生
- **日本文化は雪だるま文化**
  - 飴玉のように切ってみると中の模様が見える
  - 積み重なって**重層**している
    - 家・食べ物(ご飯の上に生魚を乗せ大豆の醤油をかける)
    - クリスマス ～ 除夜の鐘 ～ 若水 ～ 初日の出 ～ 初詣 ～ 御籤
      キリスト教 仏教 神道 アミニズム シャーマン 孔子
    - 表音文字・表意文字の両方。平仮名・片仮名・漢字・ローマ字
    - 宗教:マナ(モノ)+神道(カミ)+仏教(ホトケ)
- **古来の良いものは残しつつ新しいものの良いとこ取り**
  - 仏教、稲作、漢字、呉服

水戸・常陸國に凝縮される和の文化

・常陸國は5種類の混住の地（地味が豊か）

山、里、海が豊かで棲み分けが出来た。
久慈川や筑波山麓は山と里の出会う場所。
常陸國は日本文化の雛型。

・常陸國に残る痕跡

常陸國＝常世の国＝黄泉の国＝山と平野の境
＝日向・京都・江戸から艮の方向
⇒ 結界のエリア：境界・縁（えん・えにし）
難治県＝混住・佐竹・徳川・・友末氏による町内会部落会

・文化（衣食住） 重層文化（雪だるま文化）・・和（足し算）

縄文と弥生の結界：餅正月と芋正月、蕎麦正月
黒潮文化圏の常陸國：大洗のマナ文化・・屋号、裸行事
数寄屋づくりと入母屋づくり、高床（広間型）と地床（田の字型）
七五三と産育習俗（道通しや三目の牡丹餅）、七人の親
若衆宿の教えと娘組の教え

艮の水戸と世直し（維新回天）

- 水戸藩の位置は、和の国の中心＝水戸藩精神の基本は和の文化

  あるものを最大限に活用する

  此國になきものをは其國より此國へ、彰往考來、継往開來

  衆集思宣群力、一張一弛、游於藝、人材登用、進取の意気

- 「学ぶ心と礼節の本源」（日本遺産）

  彰考館・弘道館・偕楽園の伝える「学ぶ心と礼節の本源」

- 「和」「天と民」の精神からのズレを正す：「世直し」の土地柄

  梅は春の魁　水戸は天下の魁

  天下のご意見番（二代藩主徳川光圀公・黄門様）

  幕政に対する諫言、世直し。

  天保水戸の改革（九代藩主徳川斉昭公）

  全国に先駆けての藩政改革。幕政改革の手本。

  海防参与・国防参与（九代藩主徳川斉昭公）と維新回天

  皇国日本を守るための攘夷、そして力を付けてからの開国。

  （トランプ大統領の保護主義と同じ）

水戸の土地柄は「世直し」の血が騒ぐ

・史上有名な「世直し」は結界・鬼門（艮）の水戸から（義士烈士）

世の中が混迷を極める時、水戸は世直しのために立つ～

乙巳の変（大化の改新）

中大兄皇子、中臣鎌足らが蘇我入鹿を暗殺し蘇我本宗家を滅ぼした飛鳥時代の政変。その後、大化の改新と呼ばれる改革を断行。鎌足の父は鹿島神宮神官。利発な息子を都に上げた。

赤穂事件（忠臣蔵）

高家吉良上野介に斬りつけ切腹に処せられた藩主浅野内匠頭に代わり、家臣大石内蔵助以下47人が吉良を討った元禄期の事件。浅野家は、正保2年（1645年）常陸国笠間藩より入部。

桜田門外の変

安政7年3月3日（1860年3月24日）に江戸城桜田門外（現在の東京都千代田区霞が関）で水戸藩からの脱藩者17名と薩摩藩士1名が彦根藩の行列を襲撃、大老井伊直弼を暗殺した事件。

血盟団事件

1932年（昭和7年）2月から3月にかけて発生した連続テロ（政治暗殺）事件。血盟団の指導者の井上日召や暗殺実行者の小沼正、菱沼五郎は旧水戸藩出身。

五・一五事件

1932年（昭和7年）5月15日に起きた反乱事件。武装した海軍青年将校たちが総理大臣官邸に乱入、総理大臣犬養毅を殺害。愛郷塾主宰で水戸出身の橘孝三郎は塾生7人を率い東京の変電所を襲撃。

二・二六事件

1936年（昭和11年）2月26日から2月29日にかけて、皇道派の影響を受けた陸軍青年将校らが下士官兵を率いて起こしたクーデター未遂事件。事件の思想的支柱となったのは北一輝。「維新」は水戸学から吉田松陰をへて北一輝に受け継がれたテロリストのスローガンである。

司馬遼太郎

通説・司馬史観（西国史観・薩長史観）

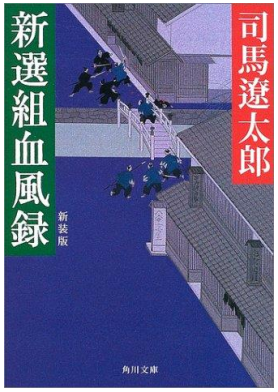
・司馬遼太郎（大阪生まれ）

竜馬がゆく（1966）

「薩長連合、大政奉還、あれァ、ぜんぶ竜馬一人がやったことさ」と、勝海舟はいった。
坂本竜馬は幕末維新史上の奇蹟といわれる。かれは土佐の郷士の次男坊にすぎず、しかも浪人の身でありながらこの大動乱期に卓抜した仕事をなしえた。
竜馬の劇的な生涯を中心に、同じ時代をひたむきに生きた若者たちを描く。

燃えよ剣（1964）

人斬り集団・新撰組の副長として組織を作り上げ、京都の治安を守るが、幕府崩壊とともに京都から北海道・五稜郭へ、最後まで新政府に対して戦い続けた人物を描く作品。
幕末の動乱期を新選組副長として剣に生き剣に死んだ男、土方歳三の華麗なまでに頑な生涯を描く。武州石田村の百姓の子“バラガキのトシ”は、生来の喧嘩好きと組織作りの天性によって、浪人や百姓上りの寄せ集めにすぎなかった新選組を、当時最強の人間集団へと作りあげ、己れも思い及ばなかった波紋を日本の歴史に投じてゆく。
「竜馬がゆく」と並び、“幕末もの”の頂点をなす長編。

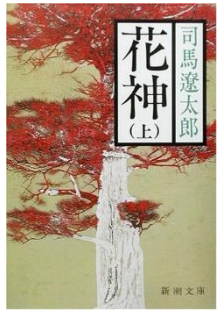


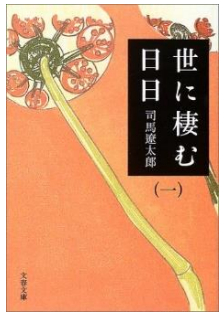
新選組血風録（1964）

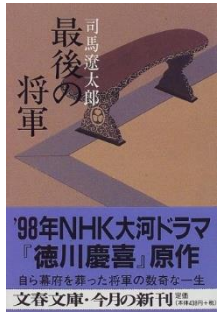
京都の治安維持を任務として組織された剣客が集り結成された、人斬り集団・新撰組にまつわる15の出来事を描いた短編作品集。斎藤一、加納惣三郎、井上源三郎、沖田総司などの新選組隊士たちの生き様15編を抑制の効いた筆致で描ききった連作短編集である。そこには、司馬が追い求めた「漢（おとこ）」の姿が息づいている。

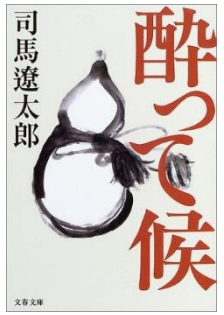
司馬遼太郎

通説・司馬史観（西国史観・薩長史観）









- **司馬遼太郎**（大阪生まれ）

花神（1972）

周防の村医から一転して討幕軍の総司令官となり、維新の渦中で非業の死をとげたわが国近代兵制の創始者**大村益次郎**の波瀾の生涯を描く長編。動乱への胎動をはじめた時世をよそに、緒方洪庵の適塾で蘭学の修養を積んでいた村田蔵六（のちの大村益次郎）は、時代の求めるままに蘭学の才能を買われ、宇和島藩から幕府、そして郷里の長州藩へととりたてられ、歴史の激流にのめりこんでゆく。

世に棲む日日（1971）

長州藩の思想を作り上げた**吉田松陰**と、その思想の意思を継ぎ、奇兵隊を作り上げ倒幕へと導いた**高杉晋作**。狂気じみた凄まじいまでの尊王攘夷運動。幕末、長州藩は突如倒幕へと暴走。その原点に立つ松陰と晋作を中心に、変革期の人物群を鮮やかに描き出す長篇。

最後の将軍（1998年大河ドラマ原作）（1967）

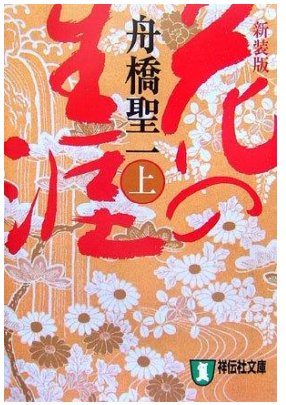
その英傑ぶりを謳われながらも幕府を終焉させねばならなかった十五代将軍・**徳川慶喜**の数奇な生涯を描いた名著。

酔って候（1966）

山内容堂。**島津久光**。**前原嘉市**。**鍋島閑叟**。土佐藩主の生涯を描いた「酔って候」、薩摩藩主の生涯を描いた「きつね馬」、宇和島藩で蒸気船建造に携わり成功させる「伊達の黒船」、佐賀藩主の生涯を描いた「肥前の妖怪」、幕末の四賢候といわれた諸侯・藩を描いた四作を収録した作品。

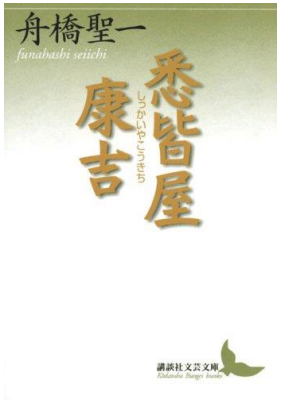
舟橋聖一

•舟橋聖一（東京生まれ・旧制水戸高校・東京帝大）



花の生涯（1963年大河ドラマの第一作）（1953）

三十五万石彦根藩主の子ではあるが、十四番目の末子だった**井伊直弼**は、わが身を埋木に擬し、住まいも「埋木舎」と称していた。「政治嫌い」を標榜しつつも、一代の才子長野主膳との親交を通して、曇りのない目で時代を見据えていた。しかし、絶世の美女たか女との出会い、それに思いがけず井伊家を継ぎ、幕府の要職に就くや、直弼の運命は急転していった。華麗なる歴史ロマン！井伊直弼、村山たか女、長野主膳。
幕末を生きた男と女の激しい愛。



悉皆屋康吉（1969）

かつて、呉服屋や顧客と、染物屋仕立屋などの間に立って着物一切の仲介をする職業があり、悉皆屋といった。
この悉皆屋の康吉が一流の染色家になるまでの波瀾の人生を描いた長篇。
舞台は、**水戸**。

或る日、市五郎は組合の寄合の帰りに、康吉を、中川という鰻屋に誘った。いきのいい、身のあつい蒲焼が名物で東京人の口に合うものは、ここ一軒だった。裏に小意気な座敷があって、大工町の箱も入った。

浅田文学

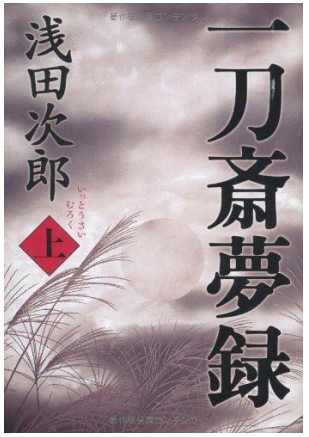
・浅田次郎（東京生まれ）

壬生義士伝（2000年）

旧幕府軍の敗退がほぼ決した鳥羽伏見の戦。大坂城からはすでに火の手が上がっていた。小雪舞う一月の夜更け、大坂・南部藩蔵屋敷に、満身創痍の侍がたどり着いた。貧しさから南部藩を脱藩し、壬生浪と呼ばれた新選組に入隊した吉村貫一郎であった。“人斬り貫一”と恐れられ、妻子への仕送りのため守銭奴と蔑まれても飢えた者には握り飯を施す男。旧友、大野次郎右衛門は冷酷に切腹を命じる一。元新選組隊士や教え子が語る、新選組にあってただひとり「義」を貫いた吉村貫一郎の生涯。浅田文学の金字塔。

輪違屋糸里（2004年）

芹沢鴨暗殺の 真実に迫った、浅田版新選組第二弾の登場。六つで花街・島原の輪違屋に売られた糸里は美しい芸妓に成長した。日に日に対立の溝が深まる近藤派と芹沢派。両派の和解に自分を利用しようとする土方歳三に翻弄 される糸里は、いつしか新選組の運命に寄り添っていく……。連載終了後、多摩に住んでいた浅田さんの曾祖父が天然理心流を習っていたことも判明。骨の髄まで新選組にどっぷりとつかった最高傑作。

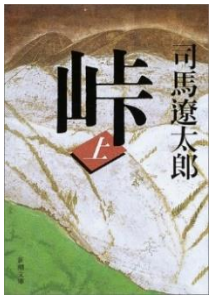


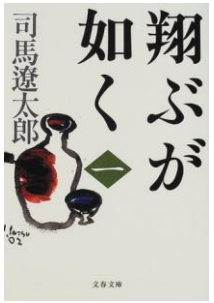
一刀斎夢録（2011年）

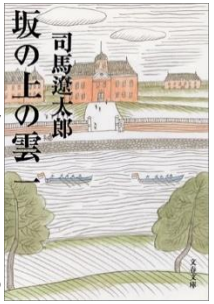
新選組三番隊長・斎藤一。鳥羽伏見、甲州、会津。そして死に場所を求め、男は西南戦争へ。血風録の中心にあった男が語る、幕末維新と寄る辺ない少年の運命。大正の世まで生き延びた新選組最強の剣士・斉藤一が語る、近代国家日本の幕開けと壮絶な人間ドラマ。巨大な感動が襲う傑作時代長編。

司馬遼太郎

通説・司馬史観（司馬遼太郎の明治）







- **司馬遼太郎**（大阪生まれ）

峠（1967）

河合継之助。幕府の崩壊を予見したため長岡藩の独立を目指して、官軍に中立を唱えるも受け入れられず戦争に突入。長岡藩の筆頭家老としてこの不利な戦いを指揮、激戦を繰り返して官軍を苦しめ続けた人物を描いた作品。

歳月（1970）

肥前佐賀藩の小吏の家に生まれた**江藤新平**。大政奉還を知るや「乱世こそ自分の待ちのぞんでいたとき」と、藩の国政への参画と自分の栄達をかけ、藩の外交を担い、京へのぼる。そして、卓抜な論理と事務能力で頭角を現し、次々に法律を作り明治国家の基礎を作るも、薩長による腐敗した政府をくずそうとするあまり、佐賀の乱の首領にされる。

翔ぶが如く（1976）

明治新政府は、内外に深刻な問題を抱え絶えず分裂の危機を孕んでいた。明治六年、長い間くすぶり続けていた不満が爆発、**西郷隆盛**が主唱した「征韓論」は、国の存亡を賭けた抗争にまで沸騰してゆく。

坂の上の雲（1972）

ロシアのアジア侵略に対して、清と朝鮮の独立を保たなければ、いずれ日本にもロシアの侵略が押し寄せてくるという危機が確実となり、勝利する見込みのない戦争を挑まなければならない、国の存亡を賭けた日露戦争を中心とした明治時代を描く。松山出身の歌人正岡子規と軍人の**秋山好古・真之**兄弟の三人を軸に、維新から日露戦争の勝利に至る明治日本を描く。

岩倉具視と伊藤博文

・岩倉具視

医学者・佐伯理一郎「天皇が天然痘に罹患した機会を捉え、岩倉具視がその妹の女官堀河紀子を操り、天皇に毒を盛った」。孝明天皇は、**岩倉具視と伊藤博文ら長州志士等に暗殺**された。長州はその後、**南朝**光良親王の血統である大室寅之祐を擁立、北朝系に代えて睦仁親王の名で以て**身代わり即位**させ、幕末政変で勝利するや東京遷都、終生本物の明治天皇として振る舞わせた。

・伊藤博文

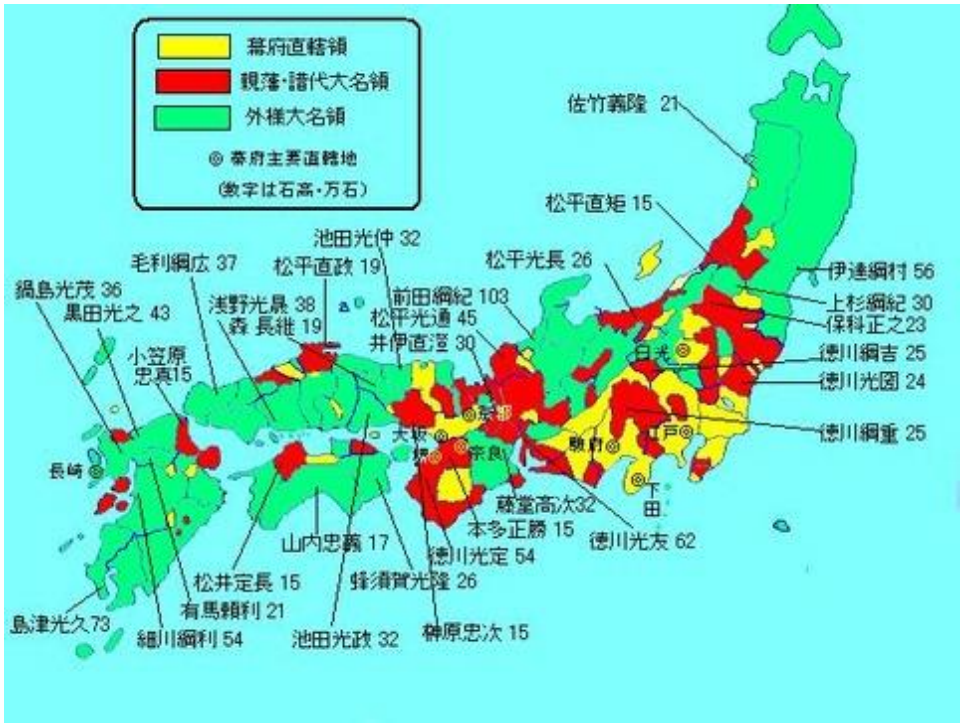
伊藤博文は仲間と共に公武合体論を主張する長井雅楽の**暗殺**を画策、塙次郎・加藤甲次郎を**暗殺**、英国公使館**焼き討ち**に参加。
１８６３年（文久３年）英国に渡航、**開国論に転ずる**。明治政府参与。西南戦争における西郷隆盛の敗死、大久保利通が暗殺された後の内務卿、初代枢密院議長として大日本帝国憲法の起草・制定、初代・第五代・第七代・第十代の内閣総理大臣を歴任。

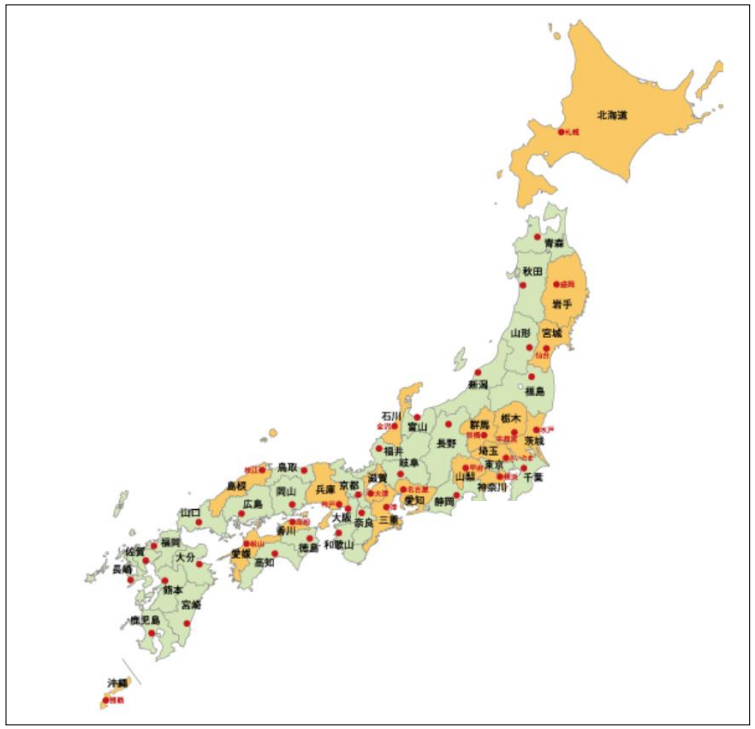
廃藩置県 裏話

・廃藩置県と官軍、賊軍

明治新政府による戊辰戦争の復讐・処罰（関ヶ原以来の恨み）。
官軍は藩名をそのまま県名と県庁所在地名に。賊軍は格下の郡や村などの名前を県名にし、県庁所在地名に藩名。会津や長岡は・・。

官軍＝鹿児島・山口・高知・秋田・広島・岡山・鳥取・佐賀・福岡など
賊軍＝茨城（水戸）・宮城（仙台）・島根（松江）・石川（金沢）
超賊軍＝福島（会津⇒福島）・新潟（長岡⇒新潟）・三重（桑名⇒津）





幕末維新、薩摩長州は何をしたか

真実か否か、と言うよりも、こういう解釈もある、ということ

『長州の天皇征伐』太田龍（2005）

孝明天皇父子弑逆事件と明治天皇スリ替え事件。大日本帝国は大謀略を経て築かれた偽政体。平成の御代まで連綿と続く西洋かぶれ売国奴政治屋の悪辣悪行をあぶり出し、家畜・羊の群れと堕した現代日本人に覚醒を促す。

『あやつられた龍馬』加治将一（2006）

維新の英雄を動かした「黒幕」の正体。なぜ彼は暗殺されたのか。なぜ下級武士が「薩長同盟」を仲介できたのか。武器商人グラバー。グラバー邸の「隠し部屋」と龍馬。英国公使館を放火した伊藤博文が「英国密航」できた理由。「亀山社中」と武器輸入。龍馬が「最後の手紙」に込めた暗号と「龍馬暗殺」の真犯人。

『幕末 維新の暗号』加治将一（2007）

維新の志士たちの集合写真と噂される「フルベッキ写真」の謎。写真には「陰謀」が隠され、そのため歴史から抹殺された。奈良県吉野、佐賀、長崎、鹿児島、山口県柳井には、「写真」に塗り込められたただならぬ「秘密」をあった。

『西郷の貌』加治将一（2012）

「鳥津公」を中心に総勢一三人の侍の写真。ひときわ目立つ大男は西郷か。西郷を写した写真は現存しない。この写真はいつ、何のために撮られたのか。明治維新の中心人物たちと「南朝」を結ぶ糸、西郷と公家、グラバーの影。

『幕末 戦慄の絆』加治将一（2014）

「和宮の謎」。皇女和宮は、徳川家茂に降嫁。公武合体の象徴となった。和宮の肖像写真とされる人物は別人か？発掘された遺体から、なぜか左手首だけが失われていた。謎に包まれた和宮の生涯と、和宮に関わる人物たちの発言、行動から明治維新最大のタブー“天皇すり替え”の核心が浮かび上がる。

『日本人が知っておくべきこの国根幹の重大な歴史』加治将一・出口汪（2015）

幕末維新の裏で実行された《本当のこと》は全部隠されている。すべてを知って一言も語らず逝った明治の黒幕フルベッキ。衝撃の真実。いままで陰に陽に語られてきた明治維新の裏側に、初めて本格的にメスが入る。語られざる明治維新の真相がここに明らかになる。

『明治維新という幻想』森田健司（2016）

平和で豊かな江戸文化・道徳を否定した明治新政府軍は、非道な方法で戊辰戦争を勝ち抜いた。開明的で希望あふれる〝明治の世〟を目指したという彼らの正体を、民衆が作った「諷刺錦絵」や旧幕府軍側の視点を通して検証する。室偽史を覆す日本近代史の核心。「権力」「カネ」「宗教」をめぐる相克! 偽史当事者が遺した糸口を発見し、洞察によって偽史の動機と状況証拠を明らかにする。

明治時代の南朝正統説

１８６９年（明治　２年）　南朝関係者を祀る神社建設と再興、贈位
１８７７年（明治１０年）　元老院、天皇正史を北朝天皇から南朝天皇へ
１８８３年（明治１６年）　北朝の天皇の号を廃し帝に
１８８９年（明治２２年）　建武の中興十五社の建立を命じる

- 吉野神宮（祭神は南朝の中心の後醍醐天皇）
- 鎌倉宮（祭神は後醍醐天皇息子で比叡山天台座主の護良親王）
- 井伊谷宮（祭神は後醍醐天皇の息子の宗良親王）
- 八代宮（祭神は後醍醐天皇の息子の懐良親王）
- 金崎宮（祭神は後醍醐天皇の息子の尊良親王・恒良親王）
- 菊池神社（祭神は南朝武将の菊池武重・武光）
- 小御門神社（祭神は南朝武将の藤原師賢）
- 湊川神社（祭神は南朝武将の楠木正成）
- 名和神社（祭神は南朝武将の名和長年）
- 安倍野神社（祭神は南朝武将の北畠親房・北畠顕家）
- 藤島神社（祭神は南朝武将の新田義貞）
- 結城神社（祭神は南朝武将の結城宗広）
- 霊山神社（祭神は南朝武将の北畠親房・北畠顕家・北畠守親・北畠顕信）
- 四條畷神社（祭神は楠木正成の息子の楠木正行）
- 北畠神社（祭神は北畠親房・北畠顕家）

１９００年（明治３３年）　皇居に巨大な南朝武将・楠木正成像を設置
１９１１年（明治４４年）　帝国議会で南朝を正統とする決議
１９１１年　明治天皇自らが南朝天皇が正統とする聖断を下す

明治時代の南朝正統説

- **明治天皇のご聖断**

1911年（明治44年）2月4日、帝国議会で南朝を正統とする決議。
さらに教科書改訂を行う。

最終的には『大日本史』の記述を根拠に、
明治天皇の聖断で、
三種の神器を所有していた
南朝が正統であるとされた。

湊川神社
明治５年創建
（明治天皇の命により）

元禄５年石碑建立
（徳川光圀公により）
碑面文（光圀公筆）
「嗚呼忠臣楠子之墓」
碑陰（朱舜水撰 岡村元春書）

花崗岩の台座に据えられた
騎馬姿の武者・楠正成公の銅像

楠家の家紋・菊水

明治以降の水戸

•番付表　近世報國赤心士艦　安政～慶応（明治9年出版）

軍配役（3/18）吉田松陰
藤田東湖　戸田忠太夫　櫻東雄

最上段（2/18）島津斉彬 毛利敬親 山内豊信
徳川斉昭公　武田耕雲斎

二段目（8/38）久坂玄随 坂本龍馬 高杉晋作
田丸稲之衛門 藤田小四郎 安島帯刀

三段目（4/40）

四段目（10/42）

五段目（4/56）

六段目（21/38）有村次左衛門
金子孫次郎 関鉄之助 岡部三十郎

七段目（4/24）梅田雲浜 頼三樹三郎 日下部伊三次
斎藤監物　鵜飼吉左衛門 高橋多一郎

全体（57/273）※57人が水戸藩

明治以降の水戸

・ブロマイド　近世義勇伝　（明治6年出版）近世日本のヒーローたち

栗田博士と田中光顕

・栗田博士と大日本史

「本紀」「列伝」における安積覚（澹泊）、
「志」「表」における豊田亮（松岡）と栗田寛（栗里）、
この三人によって**大日本史は完成**された。

・水戸学と教育勅語、明治憲法

水戸学は、吉田松陰や栗田博士、
そして明治政府に受け継がれる。
明治憲法、教育勅語にも反映。
（明治日本の思想の基礎）※伊藤博文に苦言を呈す

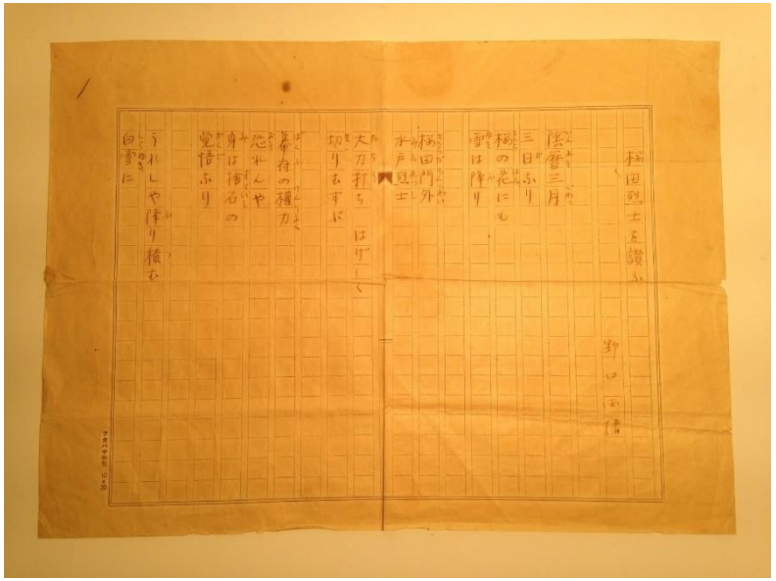
・田中光顕

土佐藩士。勤王党。陸援隊を統率。
竜馬暗殺現場にいち早く駆けつける。
元老院議官・警視総監・学習院長を歴任、
明治31年宮内大臣。
退官後「維新烈士」の顕彰に余生を奉げる。
幕末期の**水戸への感謝の気持ち**から、幕末関連資料6千点余りを寄贈、大洗の常陽明治記念館の建設に貢献（現在の「大洗町幕末と明治の博物館」）。

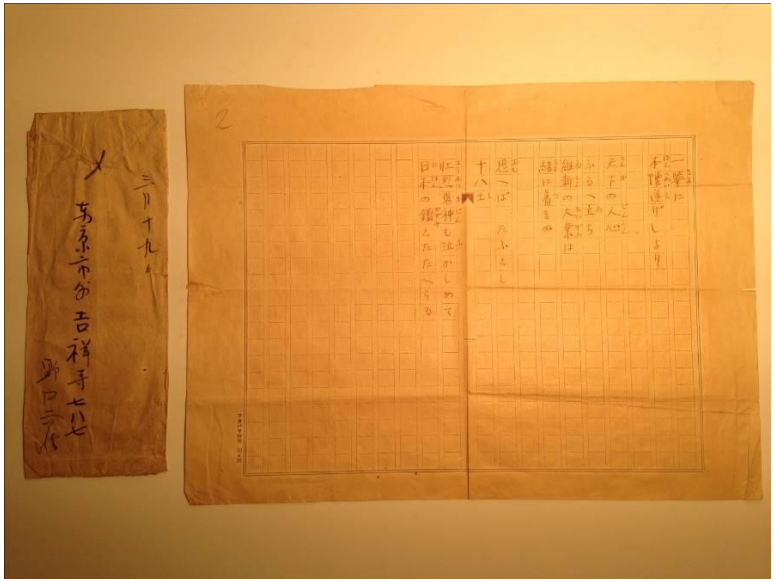
野口雨情の詩 大正時代

•桜田烈士を讃ふ

陰暦三月　三日なり
桜の花にも　雪は降り
桜田門外　水戸烈士
太刀打ち　はげしく　切りむすぶ
幕府の権力　恐れんや
身は捨石の　覚悟なり



うれしや降り積む　白雪に
一擧に　本懐遂げしより
天下の人心　ふるえ立ち
維新の大業は　緒に着きぬ
思へば　たふとし　十八士
壮烈鬼神も泣かしめて
日本の鑑とたたへらる

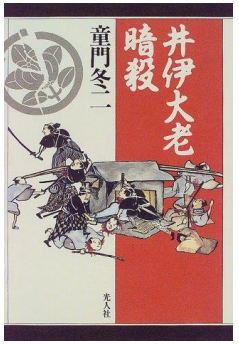


松下幸之助の貢献（恩返し）

- **三木啓次郎と松下幸之助**

三木啓次郎は旧水戸藩藩士。北辰一刀流免許皆伝。
大正7年、水戸浪士の霊を慰めるため、
大阪四天王寺境内を訪問、松下幸之助と出会う。
水戸の田畑を抵当に
経済的に困窮していた幸之助を援助。
後に成功した幸之助は恩義に応えるため、
松下電器をTBSドラマ『水戸黄門』のスポンサーとし、
浅草寺の雷門、四天王寺の極楽門、黄門神社、妙雲寺、三木神社などに寄進。

童門冬二・伊東潤・冲方丁・朝井まかて



•童門冬二 『井伊大老暗殺』（1992）

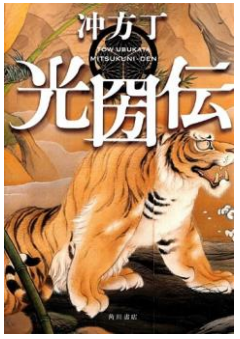
志士は死士なり。時代を冷徹に見すえる西郷、大久保。理念に忠実、あくまでも純粋な水戸藩士たち一虚々実々のドラマの中に、組織と個人の論理、興るものと潰えるものの見識差を活写した感動の人間物語。行動に己れの全存在をかけ、尊皇討幕、維新実現の起爆力となった志士たちの生と死。水戸浪士金子孫二郎の軌跡。

明治維新政府がどこかに置き忘れた初心、理念。純粋な人々によって純粋に実行された事件。

•伊東潤『義烈千秋　天狗党西へ』（2012）

自らの命を顧みず、素志を貫徹しようとした天狗党隊士の生き様を通し、私利私欲の介在する余地のない、大義に生きる人生。攘夷か、開国か。困窮する故郷のために男たちは、結集した!幕末最大の悲劇「天狗党事件」を描ききる歴史巨編。

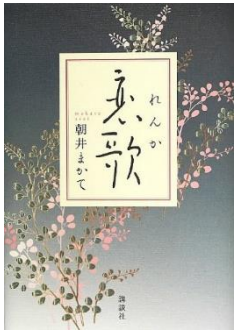
これほどまでに藤田小四郎・田中愿蔵を格好よく描いた作品はない。



•冲方丁『光圀伝』:大河ドラマ化を（2012）

父・頼房に想像を絶する「試練」を与えられた幼少期。血気盛んな傾奇者として暴れ回る中で宮本武蔵と邂逅する青年期。やがて学問、詩歌の魅力に取り憑かれ、水戸藩主となった若き虎は「大日本史」編纂という空前絶後の大事業に乗り出す。生き切る、とはこういうことだ。

誰も見たこともない「水戸黄門」伝。孤高の虎・水戸光圀の生き様に迫る。



•朝井まかて 『恋歌』:奥向き外交で和解を（2013）

幕末の江戸で熱烈な恋を成就させ、天狗党の林忠左衛門に嫁いで水戸へ下った中島歌子。だが尊王攘夷の急先鋒である天狗党は暴走、内乱の激化にともない、歌子は夫から引き離され、自らも投獄、過酷な運命に翻弄されることになる。樋口一葉の歌の師匠として知られ、明治の世に歌塾「萩の舎」を主宰し一世を風靡した歌子は、何を想い、胸に秘めていたのか。

最終章は、志半ばで逝った水戸の人たちへの祈りである。

日本遺産 近世日本の教育遺産群

－学ぶ心・礼節の本源－

2015年4月

水戸・足利・備前・日田

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も**読み書き・算術**ができ、**礼儀正しさ**を身に付けるなど、高い教育水準を示してきた。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、**明治維新以降のいち早い近代化の原動力**となり、現代においても、**学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性**として受け継がれている。

構成文化財

水戸市：弘道館、常磐公園（偕楽園）、水戸彰考館跡、日新塾跡、大日本史
足利市：足利学校跡、国宝漢籍『礼記正義』『尚書正義』『文選』『周易注疏』、釋奠
備前市：閑谷学校、釈菜、備前国和気郡井田村延原家文書、熊沢蕃山宅跡、井田跡
日田市：咸宜園跡、日田市豆田町、廣瀬淡窓旧宅及び墓、長福寺本堂、桂林園跡、咸宜園関係歴史資料

足利学校
室町時代中期

閑谷学校
江戸時代前期

咸宜園
江戸時代後期

弘道館
幕 末

水戸の日本遺産

弘道館　国特別史跡

総合大学ともいえる藩校の代表例。医学館では種痘が実施され，
徳川斉昭公は実子２人に種痘を行うなど，領内に普及を図った。
現在でも館内では，論語教室が行われている。

常磐公園（偕楽園）　国史跡及び名勝

弘道館と一対の教育施設として造られた庭園。
園内には学問興隆の象徴として，
「好文木」として知られる梅が植樹された。

水戸彰考館跡　未指定

徳川光圀により開設された「大日本史」の編纂局。
光圀に招かれた明の儒学者朱舜水は，
水戸藩の修史事業に大きな影響を与えた。

日新塾跡　市史跡

弘道館と同時期に水戸藩郊外で運営された私塾。
水戸藩士を含む多彩な門人を輩出した。
多様な教育科目を備え，医学も盛んであった。

大日本史　未指定

第２代藩主徳川光圀公よって開始され，
水戸藩の事業として継続し，
明治時代に完成した歴史書。

世界遺産 明治日本の産業革命遺産

2015年7月

世界遺産としての価値

主に九州、山口を中心に進められた日本の近代化は、西洋先進諸国からの積極的な技術導入によって進められ、それらの国と日本における文明の交流を示す顕著な事例であること。

鎖国状態にあった日本において、非西洋地域で初めて、約50年間という短期間で飛躍的な経済的発展を成し遂げた産業遺産群は、その歴史上の重要な段階を物語る建築物をまとまった集合体として捉えることができる顕著な事例であること。

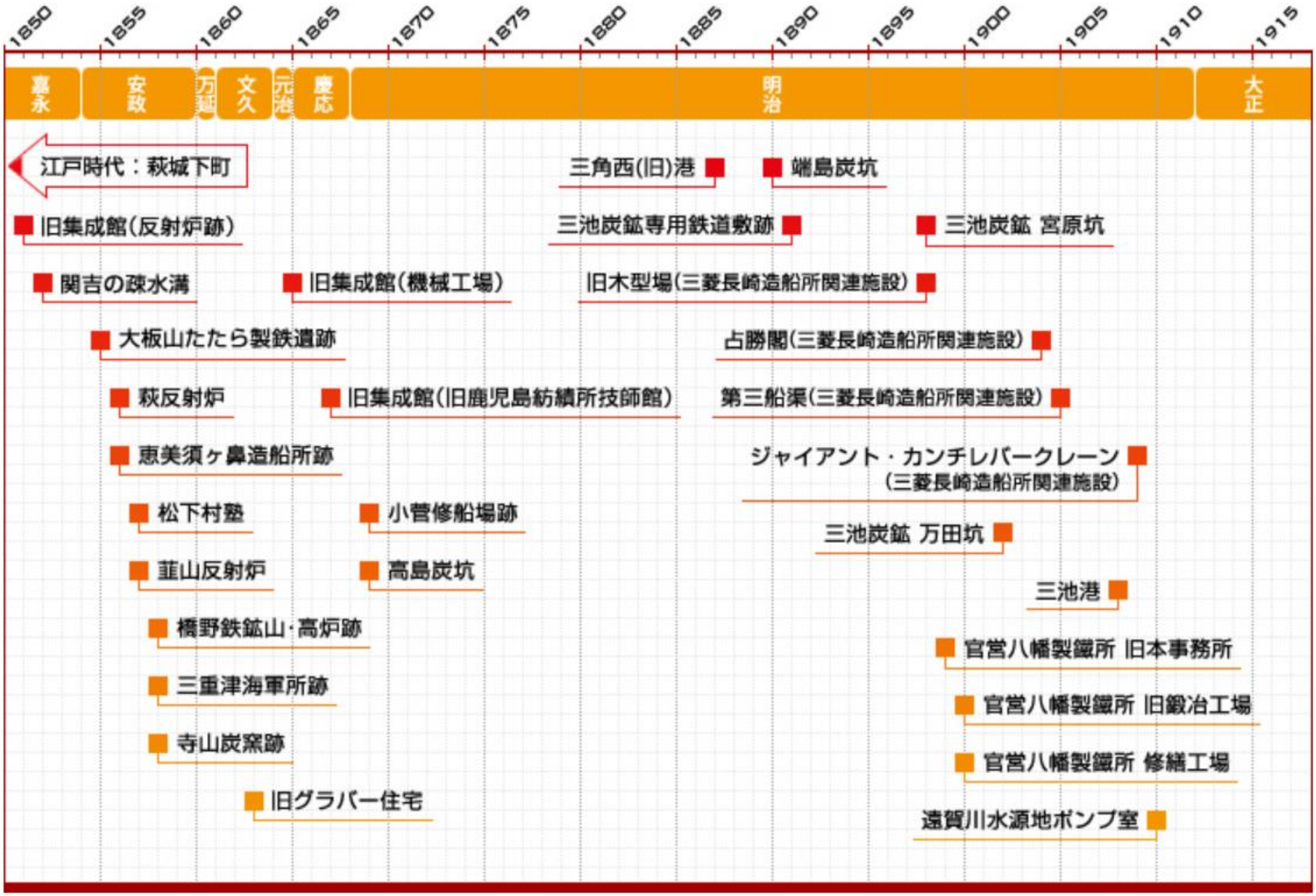
概要

19世紀後半より20世紀初頭にかけて、幕末から明治期の日本における重工業分野（造船，製鉄・製鋼，石炭産業）の急速な産業化の道程を、時間軸に沿って証言する一連の産業遺産（現役産業施設を含む）により構成されている。

これらの資産は、九州・山口と関連地域（8県11市）に立地し，地理的に分散しているが、群として全体で「西洋の科学技術の伝播の波が伝統的な日本の文化と融合し、日本が極めて短い間に産業化を遂げたことは、技術の歴史等において、極めて類希なことである」等の顕著な普遍的価値を有し、一つの範囲を構成する。

エリア	施設・遺構
萩（山口県）	萩反射炉、恵美須ケ鼻造船所跡、萩城下町、大板山たたら製鉄遺跡、松下村塾
鹿児島	旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝
韮山（静岡県）	韮山反射炉
釜石（岩手県）	橋野鉄鉱山・高炉跡
佐賀	三重津海軍所跡
長崎	小菅修船場跡、高島炭坑、端島炭坑、旧グラバー住宅、三菱長崎造船所第三船渠、同ジャイアント・カンチレバークレーン、同旧木型場、同占勝閣
三池（福岡県 熊本県）	三池炭鉱・三池港（宮原坑、万田坑、専用鉄道敷跡、三池港）、三角西（旧）港
八幡（福岡県）	官営八幡製鉄所（旧本事務所、修繕工場、旧鍛冶工場）、遠賀川水源地ポンプ室

世界遺産 明治日本の産業革命遺産



世界を驚かせた日本の力

世界を驚かせた急速な近代化と復興　学ぶ心

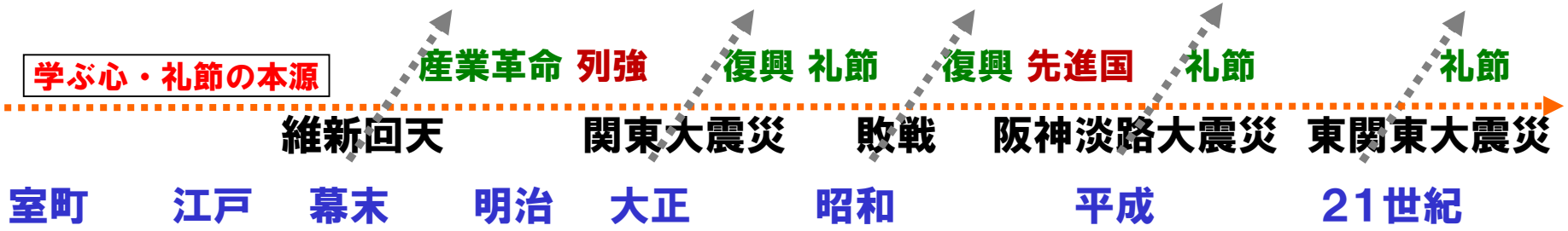
一方、幕末から明治初期にかけて日本が欧米の植民地にならず、むしろ**列強の仲間入り**を果たしたことや、戦後の焼野原からの復興、そして**先進国入り**を果たしたことは、世界の大きな驚き。

世界を驚かせた秩序と礼節　礼節の本源

終戦直後や阪神淡路大震災、東日本大震災・福島原発事故後の日本では、パニックにならず略奪や便乗値上げもなく、人々が「**秩序と礼節**」「**自己犠牲と静かな勇敢さ**」をもって行動したことを、世界は「日本人の国民性に折り込まれた特性」として絶賛、世界中の人々を感動させた。

日本人の軸線と大きな事件、そしてその度に世界を驚かす

学ぶ心・礼節の流れが、日本人の大きな軸を構成。そこに維新回天、昭和の敗戦、平成の震災などの大きな事件がクロス。その時々の日本人の振る舞いが世界を驚かせる。



学ぶ心と礼節が日本の近代化を導く

近代化と水戸

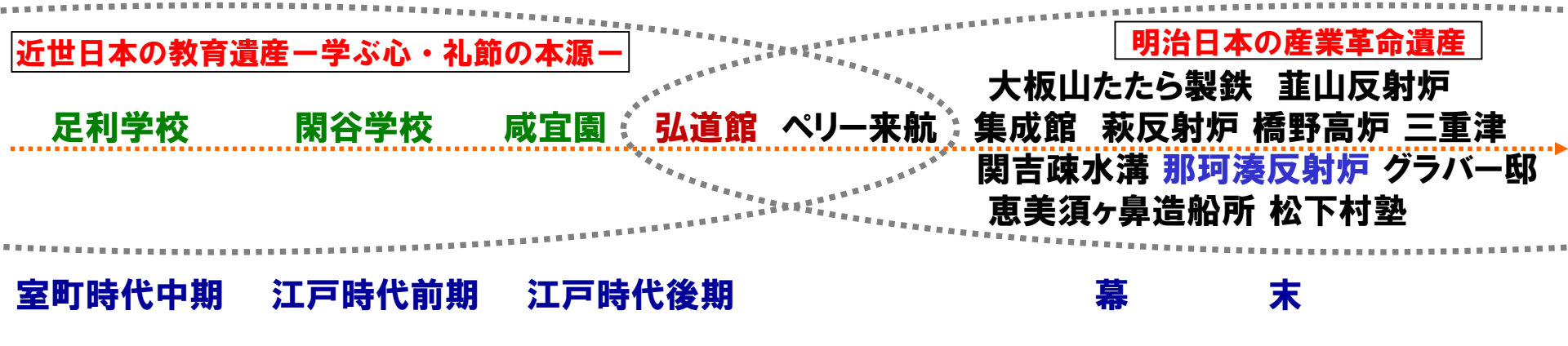
そもそも、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成施設である「橋野高炉」は、徳川斉昭公の命により、「那珂湊反射炉」への銑鉄の供給のために作られた高炉。
そして、「松下村塾」の思想の源流は、「水戸学」発展の舞台である「弘道館」。

近代化と攘夷論

ふりかえって、「明治日本の産業革命」の原動力は、幕末期から明治初期にかけての殖産興業、富国強兵策、官民一体の軍需産業。このきっかけは1824年の大津浜事件であって、それを契機に制定されたその翌年の外国船打ち払う令と、会沢正志斎の「新論」で示された攘夷論。そして、1853年のペリー来航に際しての斉昭公の海防参与就任と1855年の軍制改革参与就任。
明治日本の産業革命は、この攘夷論・攘夷運動、国防の必要性から始まったことは自明の理。

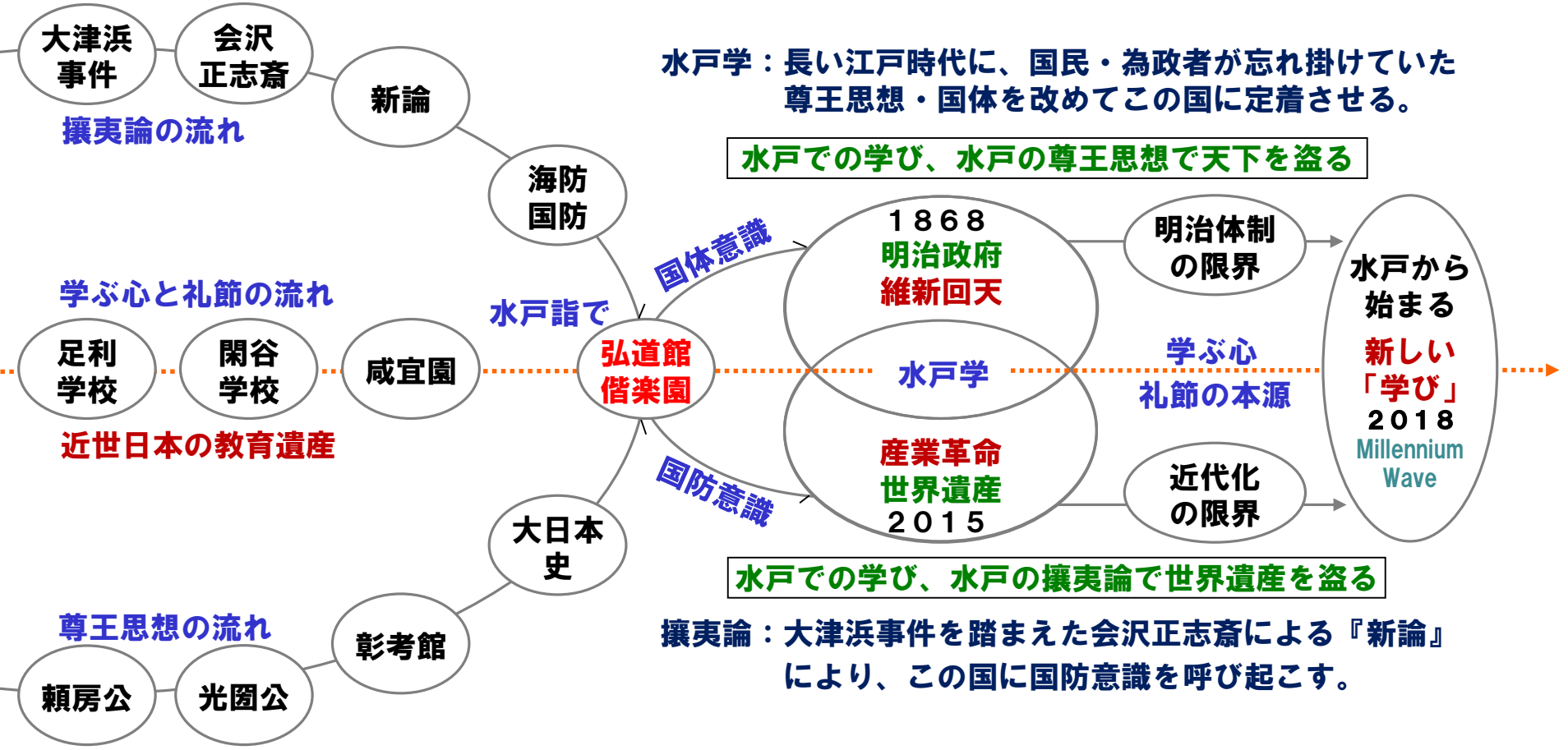
近代化と「学ぶ心」「礼節」

さらに、急速に西洋文明を吸収できたのは、日本人の有する「好奇心」「学ぶ心」「礼節」が基礎にあり、これは「近世日本の教育」がもたらした「学ぶ心・礼節の本源」によるところが大きい。



学ぶ心と礼節の水戸・新時代を創る

今こそ、百五十年の冬ごもりから目を覚ます時



御三家で、学ぶ心と礼節の街・水戸は、時代の変革期において常に先駆け、新しい時代の方向性を示すも、最終的な果実は、変節を厭わぬ外様の薩長に譲る。
しかし、薩長の手にした果実（明治体制・近代化）も限界を迎えつつある。明治維新という軍事クーデターは緊急避難的で、近代化の終焉を迎え平常に戻れば、価値観も体制も変わるべきである。
明治維新百五十年（２０１８年）を機に、**水戸から新しい時代づくり**に向けた「**学び**」が始まる。

水戸詣で、再び～世界から

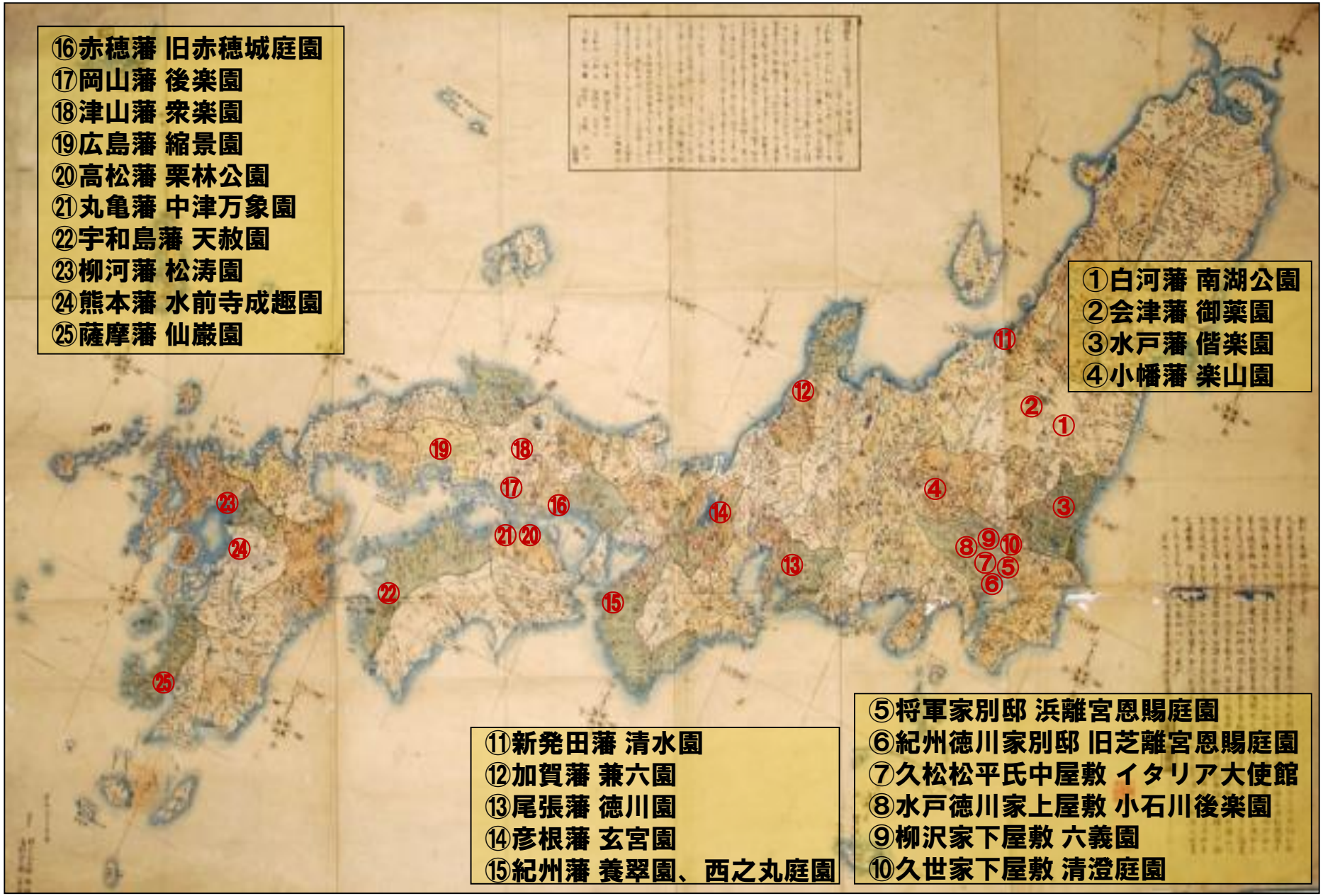
2つの奇跡の原動力

急速な近代化と復興。秩序と礼節。
この2つは、ともにアジア、世界を驚かせた「**不思議**」「**奇跡**」であり高く評価されている。
一方で、この奇跡の原動力が何であったのか、世界中の人々にとっては大きな謎。
その原動力が、**実は水戸**にあった、と言う事実を、しっかりと示す必要がある。

維新の光は水戸から昇る

子供たちへの教育や若者の希望の観点からも、また激増する海外、特にアジアからの旅行客の誘致のためにも、**維新の光が水戸から昇った**こと、**アジアの夜明けが水戸から始まった**ことを、正しい歴史認識のもとでしっかりアピールしたい。
まず水戸を観て、学び（水戸詣で）、それから九州へ。

世界に誇る大名庭園


⑯赤穂藩 旧赤穂城庭園
⑰岡山藩 後楽園
⑱津山藩 衆楽園
⑲広島藩 縮景園
⑳高松藩 栗林公園
㉑丸亀藩 中津万象園
㉒宇和島藩 天赦園
㉓柳河藩 松涛園
㉔熊本藩 水前寺成趣園
㉕薩摩藩 仙巌園
①白河藩 南湖公園
②会津藩 御薬園
③水戸藩 偕楽園
④小幡藩 楽山園
⑤将軍家別邸 浜離宮恩賜庭園
⑥紀州徳川家別邸 旧芝離宮恩賜庭園
⑦久松松平氏中屋敷 イタリア大使館
⑧水戸徳川家上屋敷 小石川後楽園
⑨柳沢家下屋敷 六義園
⑩久世家下屋敷 清澄庭園
⑪新発田藩 清水園
⑫加賀藩 兼六園
⑬尾張藩 徳川園
⑭彦根藩 玄宮園
⑮紀州藩 養翠園、西之丸庭園

大名庭園を世界遺産に

偕楽園（大名庭園）の世界遺産に向けて

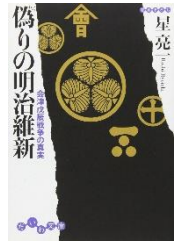
広域連携の在り方と個々の構成施設などから、一連のテーマやストーリー性をもとにした申請は、世界遺産としてより理解され易く、また海外からの旅行客に対しても分かり易い。

偕楽園を含む『**大名庭園**』をテーマとした日本遺産・世界遺産登録へ向けての取組みを、御三家、かつ日本遺産に指定された日本三名園・偕楽園を有する水戸が音頭を取って進めたい。

ふるさと原理主義による幕末史

司馬遼太郎（大阪出身）『最後の将軍』（1967）『世に棲む日日』（1971）

『最後の将軍』は、大河ドラマ『徳川慶喜』の原作。この大河ドラマは、水戸側からの圧力と本木雅弘の好演で、とても良い作品に仕上がっているが、原作は徳川慶喜を「才知に富んだ人物ではあるが、感情的に不可解な人物」として描いている。日経新聞に水戸の悪口を書いたこともあると言われている司馬の水戸嫌いは有名で、薩長土大好き『司馬史観』が炸裂。



星亮一（元福島民報、福島中央テレビ局長）『偽りの明治維新』会津戊辰戦争の真実（2008）

日本史上稀に見る悲劇、会津戊辰戦争。天皇を利用し戦争を仕掛けた薩長が官軍で、尽忠報国の会津が賊軍となった歴史を紐解く。福島のマスコミ関係者であるだけに、会津贔屓で薩長は鬼。

榊原英資（「ミスター円」元大蔵官僚）『逆説 明治維新』書き換えられた近代史（2013）

司馬遼太郎の薩長史観から離れ、敗者である幕府側からの視点にたって「明治維新」の実像を客観的に解き明かしたもの、とのことだが、ご本人が東京出身の元官僚であるので、幕府側、かつ官僚の立場からの思い入れの強い内容。今の日本を作ったのは、薩長ではなく幕府官僚である、と。薩長のご都合主義、節操のなさをはっきりと指摘している。

半藤一利（東京出身、親の実家が長岡）『もう一つの「幕末史」』（2015）

裏側にこそ「本当の歴史」がある。薩長による尊皇攘夷は、幕府を倒す口実だった。独自の歴史観を織り交ぜながら、日本のターニングポイントの「実像」に迫る、とのことだが、ご本人の出身や疎開先の実家との関係から、薩長嫌いは容易に想像できる。しかも江戸っ子らしく勝海舟大好き。維新のお手柄は海舟が独り占め。

原田伊織（京都生まれ彦根育ち）『明治維新という過ち』（2015）

日本を滅ぼした吉田松陰と長州テロリスト。明治維新という無条件の正義が崩壊しない限り、この社会に真っ当な倫理と論理を持つ時代が再び訪れることはない。との説。その出身から薩長、特に長州嫌いで、水戸嫌い。なんと、「テロを正当化した水戸学の狂気」として一章を割いている。

水戸原理主義による幕末史

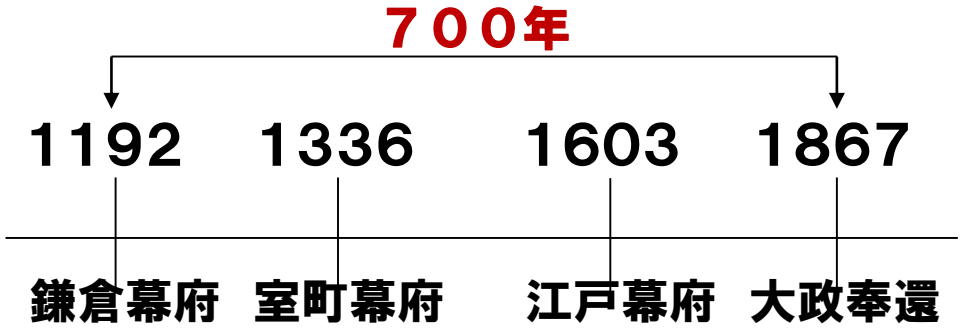
背　景	①変わらぬ國體（不変の天と人が繋がる日本の国の姿）と、その都度、委ねられる大政。 ②征夷大将軍は、軍事力・経済力を背景に民政自治を実践した八幡太郎義家の末裔に限る。 ③徳川家は八幡太郎義家の流れを汲む新田家末裔と称しているが怪しい。佐竹氏は正真正銘の河内源氏。 ④水戸藩は伊達の押さえ？鬼門封じ？金山が多いから？佐竹を恐れて武田遺臣団を同行？
水戸家	⑤大日本史編纂の背景は名分論（徳川幕府、水戸徳川家、光圀公の正統性）。 ⑥定府制と副将軍格、将軍になれない家柄は表裏一体。別格温存策。 ⑦江戸で育った水戸の文化＝学問。定府制と派閥抗争。副将軍（監査役）最後の仕事大政奉還（幕引き）。
水戸学	⑧斉昭公の「総交代の議」は、学住遊の３点セット。これが水戸詣でを生む。 ⑨水戸学の２本柱「尊王敬幕」「南朝正統説」。南朝正統説が薩長土（西郷、松陰、龍馬、小楠ら）を走らす。
幕　末	⑩幕末の大事件・桜田門外の変をきっかけに、時代が動く、志士が走る。 ⑪幕末期のアヘン戦争や南北戦争は、英米の影響力を弱め、日本の独立性を高めた。 ⑫フルベッキを中心とした簒奪集団と、名分論・礼節の水戸藩とは相容れない。
常陸國	⑬常陸國・水戸は混住社会、異文化交流の場。「和」の国・日本の雛型。かつ、世界の中心か。 ⑭結果としてあるものを受け入れ、それを活かす常陸國の土壌。 ⑮幕末に花開く「水戸の心」。彰考館、弘道館、偕楽園の教え。 ⑯水戸・常陸國に凝縮される「和：足し算」の文化。艮に位置する水戸の土地柄は「世直し」の血が騒ぐ。
回　天	⑰慶喜公や水戸藩士の示した礼節（尊王敬幕）、純粋さは「至誠一貫」。これが天下を動かした。 ⑱一方の薩長には、礼節や節操と言ったものが欠如している。軍事クーデター（覇権）。 ⑲岩倉具視や伊藤博文の非道ぶりについては、いまだに噂が絶えない。
明　治	⑳会津や長岡、桑名には「県名」でもってその恨みを晴らす。 ㉑明治天皇は南朝を正統であるとした。湊川神社の創建、皇居広場の楠正成公銅像。 ㉒明治期、水戸烈士は義士として高く評価される。 ㉓栗田博士、野口雨情、三木啓次郎らによって、水戸藩の功績は伝えられる。
現　在	㉔幕末維新の歴史は、司馬史観から水戸再評価の動き（童門冬二、伊東潤、冲方丁、朝井まかて）。 ㉕弘道館を中心に「近世日本の教育遺産群～学ぶ心・礼節の本源～」が日本遺産に。 ㉖一方、九州を中心に「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に。 ㉗幕末維新以来、薩摩長州は節操のない行動で「いいとこ取り」に走る。 ㉘世界を驚かせた日本の近代化と礼節の原動力は、実は水戸にあった。
将　来	㉙学ぶ心と礼節の街・水戸は、時代の変革期において常に純粋な心で先駆け、新しい時代の方向性を示す。

【水戸市立三の丸小学校校歌】

1907年(明治40年)制定　作詞　中村秋香　作曲　田村虎蔵

一、
我らが人の　道分くる
学びの庭は　香しき
名も世に高く　聞こえたる
弘道館の　梅林

二、
七百年の　冬ごもり
よろずの草木に　先立ちて
世に春風を　誘いし
花の林は　この林



三、
我らはここに　学ぶ身ぞ
林の梅に　鑑みて
嵐を凌ぎ　雪に耐え
香しき名を　世に立てん

【水戸市立第二中学校校歌】

作詞　江口榛一　作曲　大川八朗

一、
阿武隈の青き　遠山
那珂川の清き　流れを
見はるかす　城跡ここに
集いたる　関東の子ら
その男の子　瞳は黒く
少女子の声冴えざえし
おぉ水戸二中　若くあれ永遠に

二、
古に花と匂いし
文化もて世に謳われし
御祖らの　礎ここに
重ね置く　新たなる石
その石の　いよいよ固く
匂いまた　いよいよ高し
おぉ水戸二中　気高かれ永遠に

三、
新しき国の　未来の
光ともならばなるべき
いざともに　励みてここに
水戸の子の誉れ掲げむ
その誉れ　春咲く花に
先駆ける　梅の如くに
おぉ水戸二中　望みあれ永遠に

【茨城県立水戸第一高等学校校歌】

1908年(明治41年)制定　作詞　古賀快象　作曲　片岡亀雄

一、
旭輝く日の本の
光栄(はえ)ある今日のそのもとは
義人烈士の功績(いさおし)ぞ
忠孝仁義の大道を
貫く至誠あるならば
天地も為に動きなん

至誠一貫(揮毫 徳川慶喜公)
孟子の「至誠にして動かざる者いまだこれあらざるなり」の語による。真心(まごころ)をもって一生を生きていくという意味。

二、
世界にきおう列強と
ならびて進む帝国の
基礎(もとい)は堅忍力行ぞ
花朝月夕つかのまも
古人に恥じぬ心して
ゆめ怠るな一千人

堅忍力行(揮毫 佐藤進医学博士)
困難を強い意志で耐え忍び努力して実行すること。

【水 戸 市 歌】

1959年(昭和34年)制定　作詞　西条八十　作曲　古関裕而

一、
太平洋の 潮風浴あびて
雄々しく 清く 開く白梅
文化の春を 先駆け 呼ぶもの
新らし たくまし われらの水戸市
われら　われら
讃えよ 讃えよ 輝く水戸を

二、
維新の光は ここより昇る
弘道館の 古き甍
進取の意気は 昨日も明日も
若き血 みなぎる 力の水戸市
われら　われら
讃えよ 讃えよ 輝く水戸を

三、
笑顔をそろえて 力を協わせ
未来へ進む われらの姿
眺むる筑波 映すは 那珂川
伸びゆく日本を 築くは われら
われら　われら
讃えよ 讃えよ 輝く水戸を

彰　往　考　來

往きし時を彰らかにして未来を考える

トランプ大統領の登場とふるさと原理主義

大統領就任演説を「まちづくり」「地域づくり」の視点でみる

①トランプ大統領の「米国第一主義」

「米国のものを買い、米国人を雇用する」「保護主義こそが繁栄と強さに繋がる」。
これを私たちの立場で考えると、
・ナショナルチェーンの進出で、茨城県民が地元のお店を使わなくなる。
・東京などの他の地域に発注し、茨城県民の仕事、雇用の場を奪う。
だから、**地産地消、地元雇用、地域内経済循環、ふるさとファーストが大切**になる。

②トランプ大統領の「米国を強く豊かで誇り高く安全な国にする」

「自分の生き方を他の人たちに押しつけるのではない」 ※王者と覇者の違い
「自分たちの生き方が輝くことによって、他の人たちの手本となるようにしよう」。
これは、観光立国の考え方そのもの。※その土地の衣食住を満喫し光り輝く
・その土地と人々が元気になり輝くことで、他の地域の手本となる、と言うこと。
・世界を一つの価値観、ルールで一つにまとめあげるグローバル化ではなく、
インターナショナルと言う概念、それぞれの地域の個性を大切にしてお付き合い
・昔の藩制度のようなもので、藩ごとに完結して、足りないものは外から仕入れる。
そんな**地域主義こそ、個性豊かな地域づくりが可能で、他の手本（光）となる。**

トランプ大統領の登場で世界が変わり、地域が変わる。
変化を先取りし、地域にとってプラスの時代にしていこう！

古くて新しい「国際化」の時代

・**グローバリゼーション**

地球上にある国々をすべてまとめて同じように**統一されていくこと**。例えば、グローバル企業の商品は、世界どこへ行っても同じサービス。同じサービスをただ言語を変えて展開しているだけ。
このグローバル化が進むと、突き詰めれば世界はひとつになる。
今まであった民族や宗教、国家というものがなくなる。グローバル化の終着駅は、**民族や宗教、国家が滅亡する**という未来。
反対の言葉はローカリゼーション（現地化）。

・**インターナショナリゼーション**

国と国同士が相互の**価値観の違いを理解**をし合って、その中でお互いに納得いく点を探し、協力しながらやっていくとこと。
反対の言葉は、鎖国化。他国との関係を断ち、自分達は自分達でやっていく。

ふるさと原理主義

・ふるさと第一主義

ヒト・モノ・コト（歴史などを含め）をふるさと本位で。
権限と財源と人間の内部化、地域化
地域内経済循環
　地産地消、地場産業振興、地域の人材活用、地元雇用
コンパクトシティ
地方創生（広域都市圏で）:「新しい時代のまちづくり」
　「雇用の創出」「新しい人の流れ」「若者の希望」を実現
ふるさと納税
地域の素材、デザインを（個性ある地域づくり）
ナショナルチェーン排除
　他地域のためにこの地域があるのではない

・その一方で、力をつけたふるさとが外と交流・連携

自分たちの生き方が輝くことによって、他の人たちの手本となるようにしよう。手本＝王者（戦後の米国）＝今後の日本（パックスジャポニカ）

ふるさと原理主義の時代

・**斉昭公の攘夷論**　自立する国家

斉昭公は、欧米列強の植民地政策を熟知していた。
皇統に貫かれた国を守ろう、と考えた。
まずは独立国としての力をつけ、
対等に渡り合えるようになってから、堂々と国を開き、握手を。

・**慶喜公の大政奉還**　国体を守る・誇りを失わない

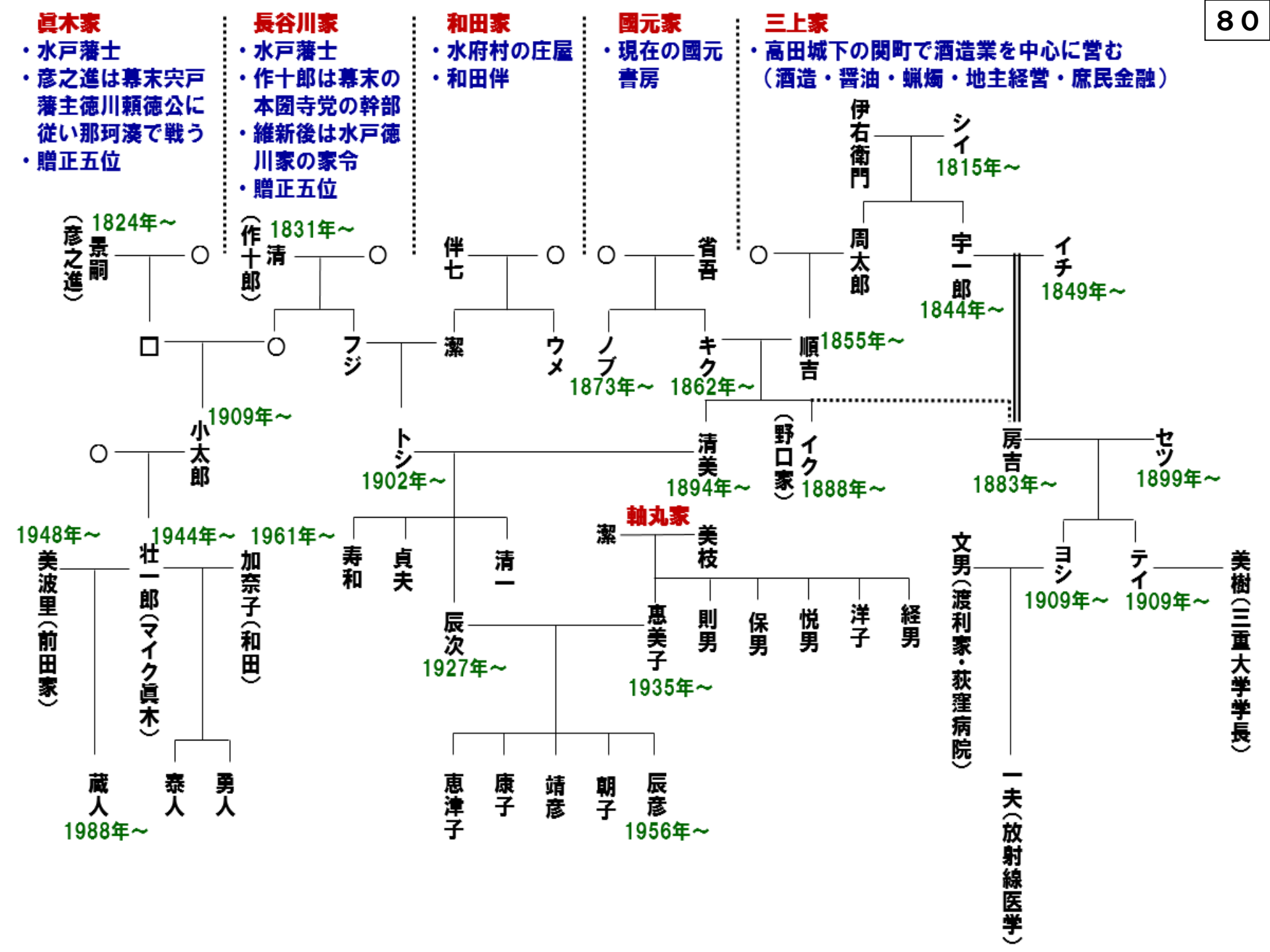
明治維新は光圀公から始まり慶喜公で終わる。
家康公は国のために幕府を開き、慶喜公は国のために幕を引いた。
小さい頃からの教育が、この国を救った。
鳥羽伏見の戦いの後、仏ロッシュからの支援を断る。
「皇室に弓矢を引かぬのが一門の定め」。

・**ふるさと原理主義で相手と握手できる街に**　自立する地域

実力のあるもののみが、必要な相手と握手が出来る。
まずは**自立する地域としての力**を蓄え、その上で対等に交流を。

・**その地域の人と土地が光り輝こう**　誇りある地域づくりを

光を発し、他の地域の**手本**となろう。


眞木家
・水戸藩士
・彦之進は幕末宍戸藩主徳川頼徳公に従い那珂湊で戦う
・贈正五位
長谷川家
・水戸藩士
・作十郎は幕末の本圀寺党の幹部
・維新後は水戸徳川家の家令
・贈正五位
和田家
・水府村の庄屋
・和田伴
國元家
・現在の國元書房
三上家
・高田城下の関町で酒造業を中心に営む
（酒造・醤油・蝋燭・地主経営・庶民金融）
伊右衛門
シイ 1815年～
周太郎
宇一郎 1844年～
イチ 1849年～
順吉 1855年～
景嗣（彦之進） 1824年～
清（作十郎） 1831年～
伴七
省吾
フジ
潔
ウメ
ノブ 1873年～
キク 1862年～
小太郎 1909年～
トシ 1902年～
清美 1894年～
イク 1888年～（野口家）
房吉 1883年～
セツ 1899年～
1948年～
1944年～
1961年～
美波里（前田家）
壮一郎（マイク眞木）
加奈子（和田）
寿和
貞夫
清一
潔
軸丸家
美枝
辰次 1927年～
恵美子 1935年～
則男
保男
悦男
洋子
経男
文男（渡利家・荻窪病院）
ヨシ 1909年～
テイ 1909年～
美樹（三重大学学長）
蔵人 1988年～
泰人
勇人
恵津子
康子
靖彦
朝子
辰彦 1956年～
一夫（放射線医学）